



茨城県

# 茨城県景気ウォッチャー調査

(令和7年9月調査分)

## 《景気の現状判断DI》

	令和7年6月	令和7年9月	前回調査との差
茨城県	44.7	<b>44.1</b>	△0.6
県北地域	43.6	<b>45.4</b>	+1.8
県央地域	44.4	<b>42.2</b>	△2.2
鹿行地域	43.5	<b>40.8</b>	△2.7
県南地域	43.1	<b>47.5</b>	+4.4
県西地域	49.0	<b>44.5</b>	△4.5

## 《景気の先行き判断DI》

	令和7年6月	令和7年9月	前回調査との差
茨城県	45.0	<b>47.5</b>	+2.5
県北地域	44.7	<b>41.3</b>	△3.4
県央地域	44.9	<b>48.4</b>	+3.5
鹿行地域	44.6	<b>48.5</b>	+3.9
県南地域	41.5	<b>49.0</b>	+7.5
県西地域	49.0	<b>50.0</b>	+1.0

令和7年(2025年)10月24日公表

茨城県政策企画部統計課

## 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断DI	3
	(2) 景気の先行き判断DI	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断DI	5
	(2) 景気の先行き判断DI	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	23
3	その他の意見	37

**【問合せ先】**

茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

**【公式サイトURL】**

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

### (2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに50名、計250名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	30	30	30	30	30	150
企業関連	農林水産業、製造業、建設業、金融業等	16	16	16	16	16	80
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	4	4	4	4	20
	計	50	50	50	50	50	250

## 3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	250 人	246 人	98.4%
県北地域	50 人	49 人	98.0%
県央地域	50 人	48 人	96.0%
鹿行地域	50 人	49 人	98.0%
県南地域	50 人	50 人	100.0%
県西地域	50 人	50 人	100.0%

## 4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) のコメント（理由）
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) のコメント（理由）
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

## 5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和7年9月調査の調査期間は、令和7年9月5日から19日までである。

## 6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方角性（景気が上向きか下向きか）をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### ※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気の方角性をみるための指標(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例  
回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1点 \times 15.0\%) + (0.75点 \times 27.0\%) + (0.5点 \times 25.0\%) + (0.25点 \times 11.0\%) + (0点 \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50(=0.5点×100%)となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

## II 調査結果の概要

### 1 全県の動向

#### (1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは44.1となった。令和7年6月調査（以下「前回調査」という。）より0.6ポイント低下し、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

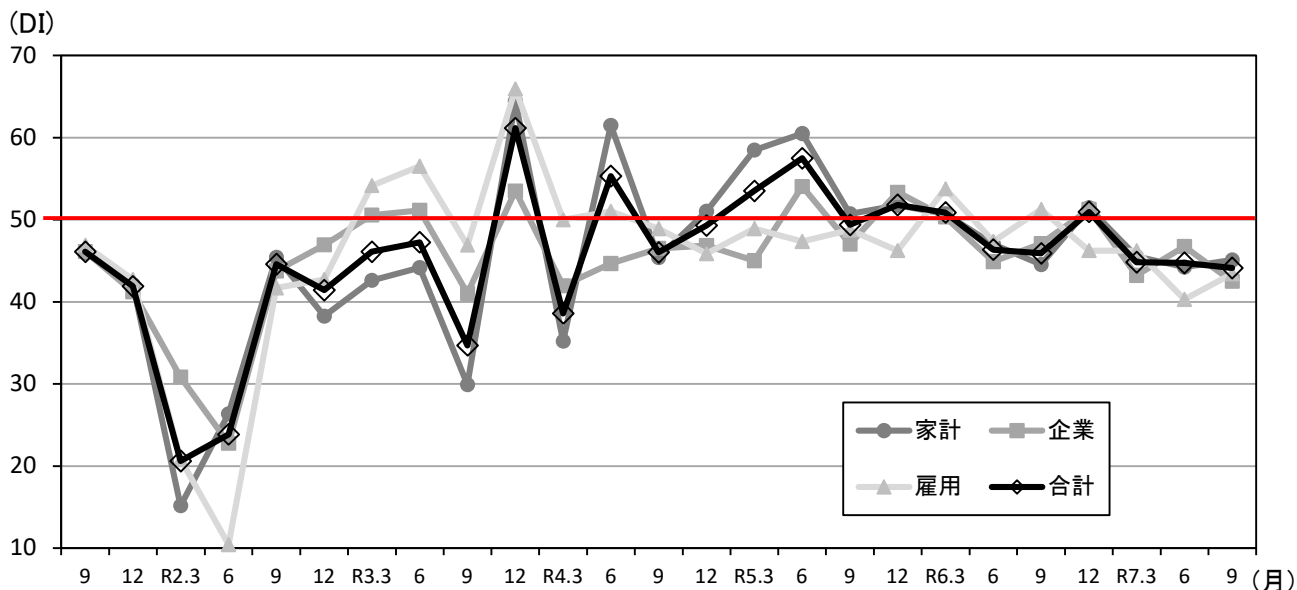
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		45.9	51.0	44.8	44.7	44.1
家計動向関連		44.5	51.5	45.5	44.2	45.1
小売関連		37.5	44.6	44.2	43.4	41.5
飲食関連		46.9	46.9	48.2	42.2	40.3
サービス関連		48.4	57.0	42.4	45.9	50.4
住宅関連		58.3	61.1	71.9	41.7	41.7
企業動向関連		47.1	51.3	43.2	46.8	42.5
農林水産業		42.9	56.3	41.7	43.8	46.9
製造業		43.8	48.8	37.5	46.2	36.9
非製造業		52.5	53.3	51.8	48.3	49.2
雇用関連		51.3	46.3	46.3	40.3	43.4

表1-2 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	1.6%	3.4%	4.0%	0.8%	1.2%
やや良くなっている	17.3%	24.6%	16.3%	17.2%	13.8%
変わらない	49.0%	49.2%	43.2%	47.9%	51.6%
やや悪くなっている	27.2%	18.2%	28.2%	28.2%	26.8%
悪くなっている	4.9%	4.7%	8.4%	5.9%	6.5%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは47.5となった。前回調査より2.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回った。

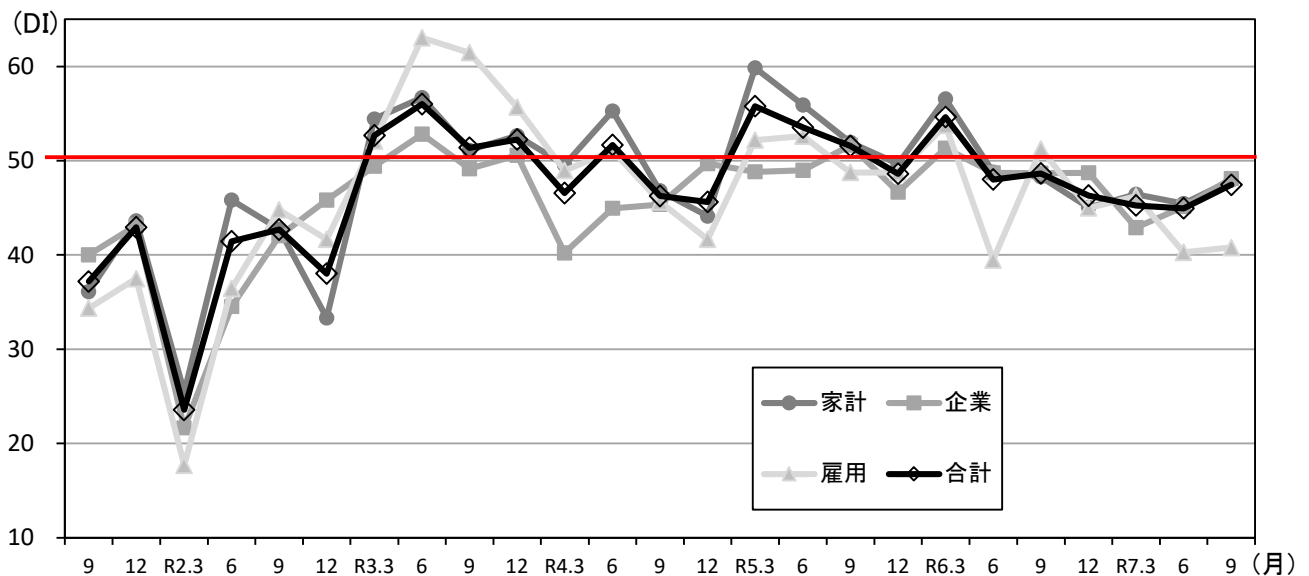
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		48.7	46.3	45.3	45.0	47.5
家計動向関連		48.3	45.1	46.4	45.5	48.0
小売関連		44.8	44.6	47.1	44.3	46.6
飲食関連		51.6	43.8	44.6	45.3	38.9
サービス関連		49.6	46.3	47.5	48.0	53.7
住宅関連		55.6	41.7	37.5	36.1	36.1
企業動向関連		48.7	48.7	42.9	45.1	48.1
農林水産業		46.4	46.9	41.7	46.9	46.9
製造業		46.9	44.5	42.5	43.6	46.4
非製造業		51.7	55.0	43.8	46.7	50.8
雇用関連		51.3	45.0	46.3	40.3	40.8

表1-4 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	0.8%	0.8%	2.2%	0.4%	1.6%
やや良くなっている	22.6%	20.3%	16.7%	16.0%	17.9%
変わらない	50.6%	48.3%	47.1%	52.5%	53.7%
やや悪くなっている	22.2%	24.2%	27.8%	25.2%	22.4%
悪くなっている	3.7%	6.4%	6.2%	5.9%	4.5%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



## 2 地域別の動向

### (1)景気の現状判断DI

#### ① 県北地域

景気の現状判断DIは45.4となった。前回調査より1.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		<b>45.3</b>	<b>54.3</b>	<b>39.5</b>	<b>43.6</b>	<b>45.4</b>
	家計動向関連	44.8	59.3	43.8	46.4	45.7
	企業動向関連	46.7	48.4	31.7	40.0	43.8
	雇用関連	43.8	43.8	43.8	37.5	50.0

表2-2 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	2.1%	4.3%	4.7%	0.0%	2.0%
やや良くなっている	16.7%	34.0%	14.0%	19.1%	10.2%
変わらない	43.8%	40.4%	25.6%	42.6%	59.2%
やや悪くなっている	35.4%	17.0%	46.5%	31.9%	24.5%
悪くなっている	2.1%	4.3%	9.3%	6.4%	4.1%

#### ② 県央地域

景気の現状判断DIは42.2となった。前回調査より2.2ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		<b>42.3</b>	<b>51.0</b>	<b>47.0</b>	<b>44.4</b>	<b>42.2</b>
	家計動向関連	44.2	52.7	49.0	44.8	46.4
	企業動向関連	38.3	50.0	40.4	43.8	34.4
	雇用関連	43.8	43.8	56.3	43.8	43.8

表2-4 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	0.0%	4.2%	4.9%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	10.2%	18.8%	17.1%	22.4%	16.7%
変わらない	53.1%	56.3%	46.3%	40.8%	41.7%
やや悪くなっている	32.7%	18.8%	24.4%	28.6%	35.4%
悪くなっている	4.1%	2.1%	7.3%	8.2%	6.3%

### ③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは40.8となった。前回調査より2.7ポイント低下して、横ばいを表す50を5期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		<b>49.0</b>	<b>46.3</b>	<b>46.9</b>	<b>43.5</b>	<b>40.8</b>
	家計動向関連	44.2	42.6	44.2	41.1	40.8
	企業動向関連	56.3	54.7	51.7	50.0	40.6
	雇用関連	56.3	37.5	50.0	33.3	41.7

表2-6 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	0.0%	0.0%	2.0%	2.2%	2.0%
やや良くなっている	22.0%	23.4%	18.4%	15.2%	8.2%
変わらない	56.0%	44.7%	53.1%	45.7%	51.0%
やや悪くなっている	18.0%	25.5%	18.4%	28.3%	28.6%
悪くなっている	4.0%	6.4%	8.2%	8.7%	10.2%

### ④ 県南地域

景気の現状判断DIは47.5となった。前回調査より4.4ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を8期連続で下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		<b>43.6</b>	<b>48.9</b>	<b>46.1</b>	<b>43.1</b>	<b>47.5</b>
	家計動向関連	40.2	51.9	50.0	41.1	48.3
	企業動向関連	46.7	45.0	43.8	48.4	48.4
	雇用関連	56.3	43.8	31.3	33.3	37.5

表2-8 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	4.3%	6.7%	6.7%	0.0%	2.0%
やや良くなっている	14.9%	17.8%	13.3%	12.8%	20.0%
変わらない	42.6%	46.7%	46.7%	51.1%	50.0%
やや悪くなっている	27.7%	22.2%	24.4%	31.9%	22.0%
悪くなっている	10.6%	6.7%	8.9%	4.3%	6.0%

### ⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは44.5となった。前回調査より4.5ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

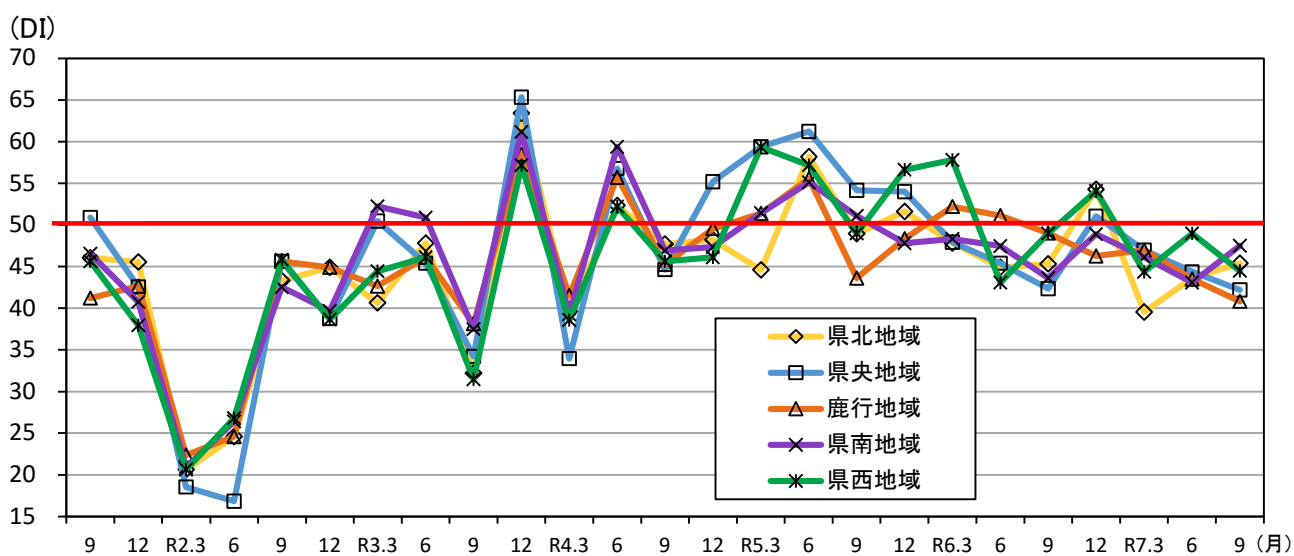
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		49.0	54.1	44.4	49.0	44.5
家計動向関連		49.1	50.9	41.7	47.5	44.2
企業動向関連		46.9	57.8	48.3	51.7	45.3
雇用関連		56.3	62.5	50.0	50.0	43.8

表2-10 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	0.0%
やや良くなっている	22.4%	28.6%	18.4%	16.3%	14.0%
変わらない	49.0%	57.1%	42.9%	59.2%	56.0%
やや悪くなっている	22.4%	8.2%	28.6%	20.4%	24.0%
悪くなっている	4.1%	4.1%	8.2%	2.0%	6.0%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月	R6.3月	R6.6月	R6.9月	R6.12月	R7.3月	R7.6月	R7.9月
県全体	44.6	41.4	46.1	47.3	34.7	61.2	38.6	55.3	46.0	49.3	53.5	57.5	49.4	51.8	50.9	46.4	45.9	51.0	44.8	44.7	44.1
県北	43.3	44.9	40.8	47.8	32.2	63.4	39.6	52.3	47.7	48.2	44.6	58.2	48.9	51.6	47.8	44.9	45.3	54.3	39.5	43.6	45.4
県央	45.6	38.8	50.5	45.4	34.2	65.4	33.9	56.8	44.6	55.2	59.4	61.2	54.2	54.0	47.9	45.4	42.3	51.0	47.0	44.4	42.2
鹿行	45.6	44.9	42.7	46.1	38.1	58.5	41.5	55.7	45.3	49.6	51.4	55.6	43.6	48.4	52.2	51.1	49.0	46.3	46.9	43.5	40.8
県南	42.5	39.7	52.2	50.9	37.5	61.2	39.3	59.4	46.9	47.3	51.4	55.1	51.1	47.8	48.3	47.4	43.6	48.9	46.1	43.1	47.5
県西	45.8	38.7	44.4	46.1	31.5	57.1	38.6	52.2	45.6	46.1	59.3	57.1	49.0	56.6	57.8	43.1	49.0	54.1	44.4	49.0	44.5
全国	48.5	36.7	47.3	45.6	43.1	59.2	46.4	51.8	49.5	49.8	52.6	53.2	50.7	51.8	49.8	47.0	47.8	49.9	45.1	45.0	47.1(季節調整値) 46.6(原数値)

## (2)景気の先行き判断DI

### ① 県北地域

景気の先行き判断DIは41.3となった。前回調査より3.4ポイント低下して、横ばいを表す50を6期連続で下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		<b>49.0</b>	<b>46.8</b>	<b>42.4</b>	<b>44.7</b>	<b>41.3</b>
	家計動向関連	52.6	49.1	46.9	49.1	40.5
	企業動向関連	43.3	43.8	35.0	40.0	43.8
	雇用関連	43.8	43.8	43.8	31.3	37.5

表2-12 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	4.2%	0.0%	4.7%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	20.8%	25.5%	11.6%	21.3%	8.2%
変わらない	45.8%	42.6%	37.2%	38.3%	57.1%
やや悪くなっている	25.0%	25.5%	41.9%	38.3%	26.5%
悪くなっている	4.2%	6.4%	4.7%	2.1%	8.2%

### ② 県央地域

景気の先行き判断DIは48.4となった。前回調査より3.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		<b>49.0</b>	<b>46.9</b>	<b>42.1</b>	<b>44.9</b>	<b>48.4</b>
	家計動向関連	49.2	48.2	44.8	45.7	50.0
	企業動向関連	46.7	42.2	36.5	43.8	46.9
	雇用関連	56.3	56.3	43.8	43.8	43.8

表2-14 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
やや良くなっている	18.4%	16.7%	7.3%	10.2%	16.7%
変わらない	59.2%	56.3%	56.1%	63.3%	56.3%
やや悪くなっている	22.4%	25.0%	34.1%	22.4%	22.9%
悪くなっている	0.0%	2.1%	2.4%	4.1%	2.1%

### ③ 鹿行地域

景気の先行き判断DIは48.5となった。前回調査より3.9ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

調査年月 分野	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計	49.0	44.7	47.4	44.6	48.5
家計動向関連	45.0	37.0	46.7	43.8	48.3
企業動向関連	56.3	60.9	50.0	48.3	46.9
雇用関連	50.0	31.3	43.8	33.3	58.3

表2-16 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	0.0%	2.1%	2.0%	2.2%	2.0%
やや良くなっている	28.0%	19.1%	26.5%	19.6%	22.4%
変わらない	44.0%	42.6%	36.7%	41.3%	46.9%
やや悪くなっている	24.0%	27.7%	28.6%	28.3%	24.5%
悪くなっている	4.0%	8.5%	6.1%	8.7%	4.1%

### ④ 県南地域

景気の先行き判断DIは49.0となった。前回調査より7.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

調査年月 分野	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計	45.2	44.4	44.4	41.5	49.0
家計動向関連	44.6	44.2	45.0	39.3	50.8
企業動向関連	43.3	46.7	42.2	43.8	50.0
雇用関連	56.3	37.5	50.0	50.0	31.3

表2-18 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%	4.0%
やや良くなっている	19.1%	22.2%	15.6%	10.6%	18.0%
変わらない	48.9%	35.6%	46.7%	53.2%	52.0%
やや悪くなっている	25.5%	31.1%	28.9%	27.7%	22.0%
悪くなっている	6.4%	8.9%	6.7%	8.5%	4.0%

⑤ 県西地域

景気の先行き判断DIは50.0となった。前回調査より1ポイント上昇して、横ばいを表す50となった。

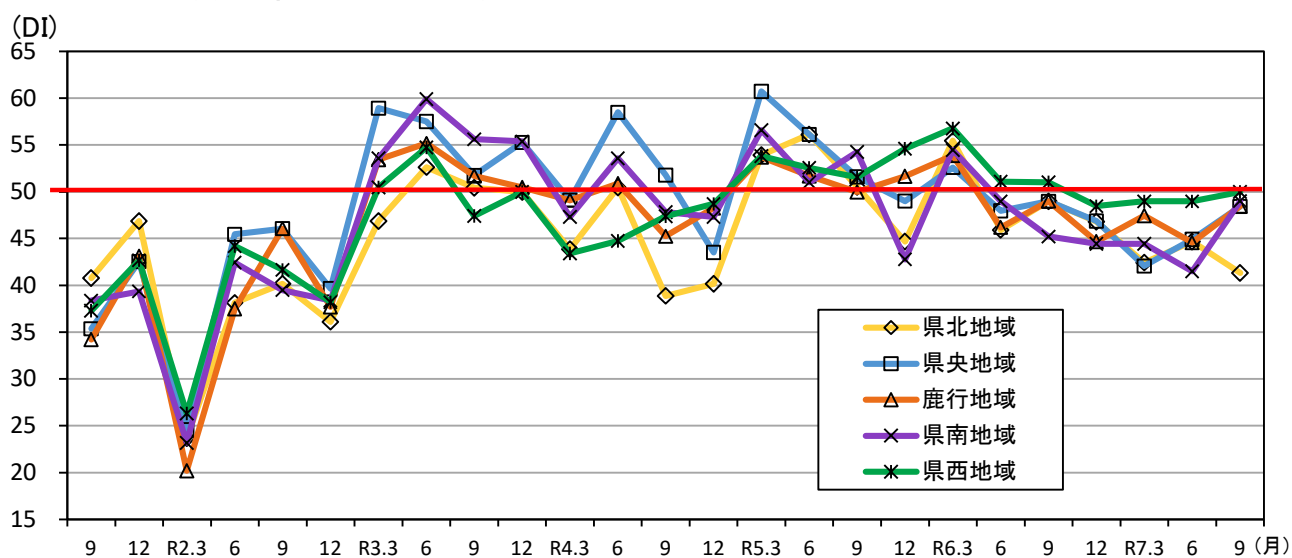
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
合計		51.0	48.5	49.0	49.0	50.0
家計動向関連		50.0	46.6	48.3	49.2	50.0
企業動向関連		53.1	50.0	50.0	50.0	53.1
雇用関連		50.0	56.3	50.0	43.8	37.5

表2-20 回答構成比

	令和6年 9月	令和6年 12月	令和7年 3月	令和7年 6月	令和7年 9月
良くなっている	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	26.5%	18.4%	20.4%	18.4%	24.0%
変わらない	55.1%	63.3%	59.2%	65.3%	56.0%
やや悪くなっている	14.3%	12.2%	8.2%	10.2%	16.0%
悪くなっている	4.1%	6.1%	10.2%	6.1%	4.0%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移

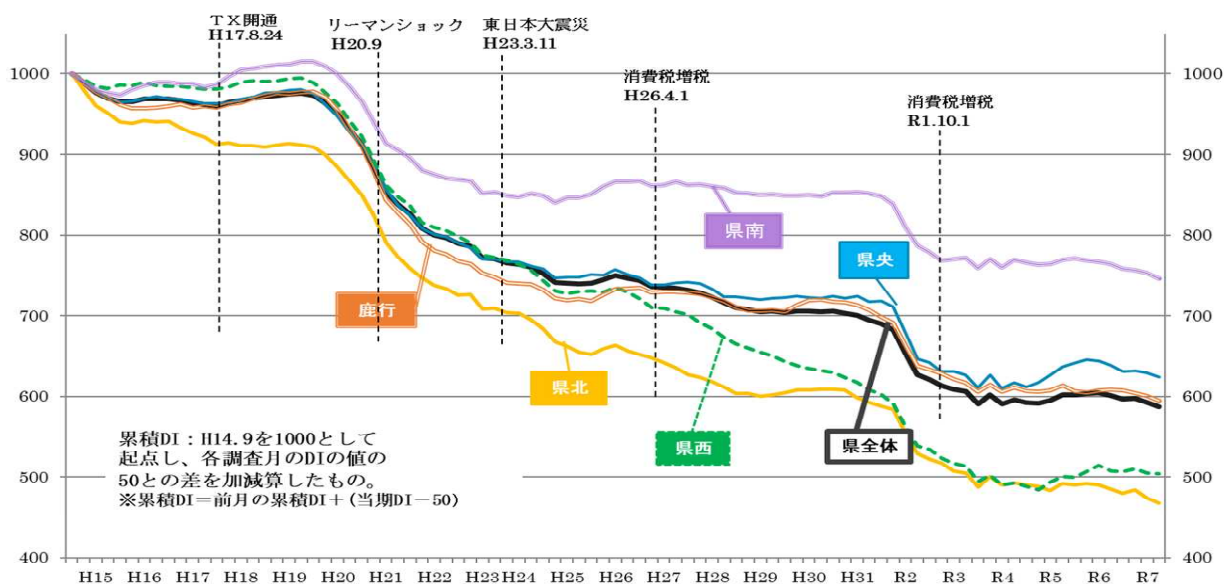


	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月	R6.3月	R6.6月	R6.9月	R6.12月	R7.3月	R7.6月	R7.9月
県全体	42.7	38.0	52.7	56.0	51.4	52.2	46.6	51.7	46.3	45.6	55.8	53.5	51.6	48.6	54.6	48.0	48.7	46.3	45.3	45.0	47.5
県北	40.2	36.1	47.4	52.6	50.4	50.0	43.9	50.5	38.9	40.2	53.9	56.1	50.5	44.7	55.4	45.9	49.0	46.8	42.4	44.7	41.3
県央	46.1	39.7	58.6	57.5	51.8	55.3	49.1	58.5	51.8	43.5	60.7	56.1	51.6	49.0	52.6	48.0	49.0	46.9	42.1	44.9	48.4
鹿行	46.1	37.7	53.4	55.2	51.7	50.5	49.1	50.9	45.3	48.2	53.7	51.7	50.0	51.6	53.9	46.2	49.0	44.7	47.4	44.6	48.5
県南	39.5	38.4	53.6	59.9	55.6	55.4	47.3	53.6	47.8	47.3	56.6	51.0	54.3	42.8	54.4	49.0	45.2	44.4	44.4	41.5	49.0
県西	41.7	38.2	50.5	54.7	47.4	50.0	43.4	44.7	47.4	48.7	53.8	52.6	51.5	54.6	56.8	51.1	51.0	48.5	49.0	49.0	50.0
全国	47.4	37.1	48.6	51.7	56.9	50.8	48.1	48.1	49.6	47.8	53.6	52.4	50.1	50.4	51.2	47.9	49.7	48.8	45.2	45.9	48.5(季節調整値)
	47.1	36.1	48.6	52.6	56.7	49.5	48.4	49.2	49.3	46.3	54.1	53.6	49.7	48.6	51.9	49.2	49.2	46.9	46.6	46.9	48.2(原数値)

(参考) 地域別累積DI

### 地域別景気ウォッチャー調査累積DI

(H14年9月=1000)



### III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

#### (1) 県北地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	観光型ホテル	今月の売上げが、前年同月と比べて大幅に上回った。3か月前と比べても大きな伸び率となったので、景気は良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	小売業 (弁当・惣菜店)	各種イベントなどでの人流は増えてきたと感じるので、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	6月頃と比べ予約の件数は増えているが、9月までの売上げは昨年より僅かに少ない。しかし、土日祝祭日の客の入りがよく、店頭を持ち帰り商品の売れ行きも好調なため、やや良くなっていると判断した。トランプ関税の不安も和らいできたように感じる。
		旅行会社	人の動きが活発になってきているように思えるので、やや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	3か月前の平年比較より客足が増加しているため、やや良くなっていると判断した。関連施設においても、天候等に左右されないくらいの上昇幅となり、背景として、夏のボーナスの増加による余暇への支出増が感じられた。キャッシュレス決済が増え続けていることも、財布の紐が緩む一因として考えられる。平年であれば、出し渋りの傾向が顕著な高齢者も多く支出しており、年代を超えて余暇を楽しむ余裕が出てきたと感じる。
雇用	求人開拓員	管内の有効求人倍率が緩やかに上昇しており、求職者の活動が若干活発になっていると思慮される。よって、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	商店街代表者	物価高と猛暑が継続しており、状況は変わらない。
		コンビニエンスストア	物価は相変わらず高い状態だが収入に変化はない。日々の生活が厳しい状況は変わらない。
		コンビニエンスストア	3か月前と比べ、売上げが伸びていないので、変わらないと判断した。
		小売業 (食料品)	資材等の値上げも今のところ落ち着いているため、変わらないと判断した。
		小売業 (水産物)	物価高騰の中、支出を抑える傾向が強まっているように感じる。消費者の購買意欲が回復していないので、変わらないと判断した。
		小売業 (時計)	客数の減少はあるものの、単価が少し上昇しているため、変わらないと判断した。
		レストラン	商品の仕入価格の値上がりが続いているが、あまり価格転嫁できずにいる。客も買物点数を減らして購入している。この状況は3か月と変わらない。
		スナック	金を使う人が減っているため、とにかく店が暇である。

変 わ ら な い	家計	タクシー会社	前年度同時期の売上げや3か月前の売上げと比較して同じくらいなので、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	物価高や政治の不安定さもあり、客の様子からは余分な支出を避けようとする動きが見られる。3か月前と比べて、景気に変化はない。
		ドライブイン	財布の紐が固く、消費動向が変わらない。客単価は高いものの、客数や売上げは3か月前と比べて75%程度であるため、全体としては変わらないと判断した。
		ゴルフ場	お盆休みでの来場者が多かった一方で、猛暑や雷雨の影響があり若干マイナスになったため、トータルとしては特に変化はないように感じる。
		ゴルフ場	異常気象による気温の上昇がニュース等で報道されているが、施設を利用する客の動向には大きな変化はないように感じる。早朝のトワイライトプレースタイル、カートの乗り入れ、冷風配置、中にはエアコン装備車など快適空間を売りに集客に取り組んでいるコースもある。有料枠としてプレーヤーの選択制とすることで、新たな単価アップや集客カードとなる可能性も考えられる。前年度を超える数字をキープしているコースもあり、一概に景気との関係を結び付けがたい。平日は年金受給者の利用で賑わい、土日は若い世代や現役世代の利用がみられる。政界で危機感を煽っているほど、景気の低迷は感じられないような気がする。
	設計事務所	動きが変わらない。	
	企業	林業関係者	特段、変化は感じられない。何とか現状を維持している。
		製造業（食料品）	円高や人件費等の影響により物価高が続いているが、3か月前と比べ更に悪くなっている感はあまり感じない。よって、変わらないと判断した。
		製造業（金属製品）	大手の動向が不透明であり、先行きの不安が拭えないものの、3か月前と大きくは変わらない。
		製造業（電気機械器具）	9月は取引先の多くが半期決算となるが、既発注品を総合的にみて、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	エネルギー関連の注文、作業は好調だが、液晶・半導体製造装置関連の注文、作業は減少しているため、トータルでは変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	今年に入り、中国経済の鈍化に伴い受注減が続いているものの、減少範囲は変わっていない。
		製造業（精密機械器具）	受注状況があまり変わらない。
		製造業（精密機械器具）	受注に増減が見られないため、変わらないと判断した。
建設業		景気は良くも悪くもないという取引先が多いので、変わらないと判断した。	
建設業		今年も前年度と同じような工事件数なので、変わらないと判断した。	
金融業		中小企業による設備投資需要は、物価高等の影響もあり、慎重になっていることから、3か月前と比較し景気の変化はないと史料した。	
不動産業		人の動きは、多くもなく少なくもなく、例年通りのように感じる。	
非製造業（その他）		新規の案件はなく、継続作業になるため、変わらないと判断した。	
雇用	求人広告	季節限定の求人募集が例年と比較して一定数ある。通常の募集も平均数依頼があったので、変わらないと判断した。良くも悪くもあまり特徴がない。	
	学校就業関係者	取引業者などとの会話から、変わらないと感じた。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	食品の値上げにより、7月くらいまでは客単価が2~3%伸びていたが、8~9月は伸び率が落ちているので、やや悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	暑さのせいで来店客数が少なくなっているため、やや悪くなっていると判断した。9月だというのに、秋物に移行できない。
		自動車販売店	異常気象や物価高騰により、消費活動が鈍化しているため、やや悪くなっていると判断した。高額商品である車は、先行き不安から、買い替えの時期を延長する客が多い。
		小売業（酒類）	市内では、大手総合電機メーカーの工場廃業が進行中である。これに伴い、飲食店を利用する人が減少しているため、商店や飲食店も軒数が激減している。酒類の販売も売上げが減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	物価高騰に加え、猛暑の影響もあるのか、日帰り利用客の数が減少傾向にあるため、やや悪くなっていると判断した。

やや悪くなっている	家計	ゴルフ場	例年なら、この時期は10～11月の予約対応で忙しいのだが、今年は9月に入っても忙しさを感じない。また、今月は昨年度より200万円売上げが下がり、実質営業赤字に陥ったため、やや悪くなっていると判断した。平日のゴルフコンペが少ない。
		ゴルフ場	連日の猛暑により、外出を控える傾向が顕著になっている。利用年齢層が比較的高く、屋外レジャーのゴルフ場では、来場人数が極端に少ないため、やや悪くなっていると判断した。また、夏休みがあり、子や孫の帰省に伴う支出が増えたため、趣味や娯楽への支出は抑えているように見える。年金受給者層に至っては、節約を名目に消費活動を控えているように見える。
		写真店	昨年同時期と比べて極端な売上げの増減はないものの、預金残高は3か月前よりも減っているため、景況感は悪化しているように感じてしまう。
		美容室	物価高の影響で、財布の紐がより固くなっていると感じるため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	水産業関係者	物価の値上がりが顕著なため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（化学工業）	トランプ関税の影響が出始めているため、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	公共職業安定所	来所する求職相談者数はこの3か月横ばいといったところだが、求人総数としては昨年から低下傾向であり、有効求人倍率も1倍を切っているため、やや悪くなっていると判断した。
悪	家計	スーパー	暑さと物価高により、来店客数の減少と部棚出費（特定の部門で発生する費用）を抑える傾向が顕著なため、悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（その他）	物価上昇に伴い消費者は買控えしているため、悪くなっていると判断した。特に、米の値上がりの影響は大きく、パンや麺類など小麦製品へ移行している。

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	スーパー	7月にテナントリーシングにより、100円ショップと巨大室内遊園地がオープンした。酷暑の影響で、子育て世代は、子供の遊び場を探している。有料（子供1日¥900、保護者1日¥600）でも、2時間様々な遊具で遊べて、保護者も涼しく過ごせる。SNSの発信などもあり、遠方からも若い家族連れが多く来店した。8月には夏まつりなどイベント開催による集客増もあったため、やや良くなっていると判断した。
		自動車販売店	新車購入来店者数は減少しておらず、問合せも増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	やや良くなってきたが、気温上昇により外出する客が減った気がする。
		観光型ホテル	例年より稼働が上がっているため、やや良くなっていると判断した。
		旅行代理店	客の動向が活発になってきた。消費金額も多少上向きのため、やや良くなっていると判断した。
		バス運転手	通勤や通学といった日常使いの路線バスには大きな変化は感じられないが、地元をホームとするプロスポーツチームの成績が好調で観客の利用が増えていること、様々なイベント開催に伴う県外からの来訪者の利用が増えていることから、やや良くなっていると判断した。
		スーパー銭湯	集客と売上げが前年比を超えたため、やや良くなっていると判断した。気温は高いが、大雨や台風等の影響が少ないのも大きい。
企業	建設業	工事の受注や工事見積りの引き合いが増えたため、やや良くなっていると判断した。	
変わらな	家計	商店街代表者	あまり変化を感じることはない。
		小売業	来店客数は増加しているが、売上高は伸び悩んでいるため、変わらないと判断した。客は来店しても買控えているようだ。
		コンビニエンスストア	客数については、大きな変化なく好調が継続している。
		酒・各種商品小売業	物価高騰が止まらない。酒類も毎月値上げの通知が来ている。消費者も安さを一層求めるようになっていて、大手スーパー等との価格差を感じている。
		楽器販売	特に大きく変わった印象がない。
		割烹料理店	物価高騰につき、客が増加しても収益には変化がない。
		道の駅	主食である米の値段が高止まりしていて、嗜好品には手を出さない傾向が見られる。衣類や娯楽などを控えて節約してる方がほとんどだと思う。店頭でも、基本的なものは売れるが、余分なものは動かない。よって、変わらないと判断した。
		レジャー施設	原材料費の高騰や市場での値上げ等は続いているが、昨今のニュースではそこまで大きく取り上げられていない。世間一般でも、許容しながら工夫して対応している状況が感じられるため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	客の消費行動に変化を感じない。
		写真店	特に状況に変化はないが、物価の上昇は凄く感じる。
い	企業	設計事務所	建設資材の高騰や職人不足の状況は、3か月前と変わっていない。公共事業では、入札不調となるケースが目立っている。膨れ上がる工事費に設備投資も足踏み状態のようだ。
		農業関係者	特段変化した実感が無い。
		製造業（食料品）	暑さの影響で、人流が減ったまま変わらない。
		製造業（印刷・同関連業）	受注・売上げの状況をみても、変わらないのが現状である。
		製造業（金属製品）	中部圏自動車メーカーからの受注は堅調に推移し増加傾向にあるものの、昨年度からの世界的なEV化の減速によって関連部品が減産（20～60%減）となっている状況が継続していることに加え、一部の製品は更なる減産情報があり、売上げが横ばい傾向にある。関東圏は景気見通しで良い話を聞かないこともあり、景気については横ばいと判断した。
建設業	会社として大きな変化はない。		

変わらない	企業	運輸業（道路貨物運送業）	新規の案件もなく、燃料単価にも大きな変化がないため、変わらないと判断した。	
	雇用	公共職業安定所	管内の有効求人数は、5月～7月にかけて特筆すべき大きな変動はないため、変わらないと判断した。ただし、新規求人数は5月～7月にかけて微増している。県の有効求人倍率（季調値）も、求人が求職を上回って推移しているものの、改善の動きは弱まっている。	
		学校就業関係者	企業側の採用意欲は引き続き高い傾向にあり、新卒向け求人情報の提供も多い。3か月前から継続して安定した状態にある。	
		求人開拓員	求人数は減少傾向にあるが、利用者数に大きな変化はない。	
やや悪くなる	家計	商店街代表者	暑さのためか、商店街の人通りも少なく、夏場の売上げが下がっているため、やや悪くなっていると判断した。	
		スーパー	客単価が低いため、やや悪くなっていると判断した。	
		コンビニエンスストア	売上げなどを考慮し、やや悪くなっていると判断した。	
		小売業	客単価は若干上がっているものの、ここ数か月客数がかなり減少しているため、やや悪くなっていると判断した。	
		農産物直売所	猛暑の影響で、来場者数の減少傾向が続いているため、やや悪くなっていると判断した。テレビの天気予報などで、「不要不急の外出を控えるように」とか「危険な暑さ」などとアナウンスしていることが影響していると思う。また、全品的な物価上昇に伴い、贈答品や嗜好品の買控えを感じる。	
		都市型ホテル	今月の予約状況は昨年と比較し減少している。原料の高騰に伴い単価をアップしたが、全体の収益は減少し、利益も減少している。利益は3か月前よりも更に下がっているため、やや悪くなっていると判断した。	
		タクシー運転手	今月と3か月前の売上げを前年同期と比べると、今月の前年比がやや減少しているため、やや悪くなっていると判断した。	
		理・美容店	当店客は年配者も多く、今年の暑さで外に出る事を控えている様子が伺えるため、やや悪くなっていると判断した。	
		住宅販売会社	銀行金利が上昇していることから、住宅ローンの返済を不安視し、購買意欲が低下している様子が伺えるため、やや悪くなっていると判断した。	
	つてい	企業	製造業（輸送用機械器具）	原材料費、エネルギー費、労務費の上昇が継続する中で、トランプ関税の影響が少しずつ出始めているため、やや悪くなっていると判断した。
製造業（精密機械器具）			自動車関係の受注が落ちているため、やや悪くなっていると判断した。	
製造業（精密機械器具）			受注が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。	
運輸業			輸送量が小口化している。また、止まらない物価高にも関わらず、価格交渉が停滞しているため、やや悪くなっていると判断した。	
金融業			物価上昇及び最低賃金の引上げに伴う賃上げに対して、価格転嫁できていない事業所が多い。また、消費購買行動は安価なインターネット型が増加しており、店舗型の業況は回復していない。よって、総合的な景気は下降傾向にあると判断する。	
不動産業			建築関連の価格高騰は上限なく続いており、住宅やマンション販売などへの価格転嫁は限界を迎えているため、やや悪くなっていると判断した。	
情報通信業（情報サービス業）			例年であれば下半期に向けて景気が上向いてくるが、業種によって悪い状況も出てきているため、やや悪くなっていると判断した。	
雇用			求人広告	各企業の採用予算が減っているため、やや悪くなっていると判断した。
悪	企業	家計	日本料理店	来店客数が減少しているため、悪くなっていると判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	受注が激減しているため、悪くなっていると判断した。	
		製造業（一般機械器具）	自動車、建設機械の仕事の出が悪くなっているため、悪くなっていると判断した。	

## (3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	レジャー施設	物価高ではあるが、人の動きが活発で、猛暑も重なり消費が拡大したため、良くなっていると判断した。子供の夏休み、お盆などの影響が大きかった。また、外国人の動きも多く見られた。
やや良くなっている	家計	スーパー	売上げ、客数ともに伸長しているため、やや良くなっていると判断した。
		運転代行	前年同月比の伸び率は、3か月前よりも今月の方がやや上がっているため、やや良くなっていると判断した。
		道の駅	来客数及び客単価が前年より増加しているため、やや良くなっていると判断した。
	企業	保険業	保険料の料率改定により、全体的に収入は増えている。建築費や建築資材、食料品等あらゆるものが高騰しているから仕方がないと、顧客も理解の上で保険の更新をしているので、やや良くなっていると判断した。
変わらな	家計	スーパー	記録的な猛暑を受け、飲料や涼味など夏物商材を中心に堅調な動きが見られるものの、依然として節約志向は強く、買上げ点数は伸び悩んでいる。購買への警戒感は根強いと感じるため、変わらないと判断した。
		家電販売店	売上げが昨年の同時期と同程度なので、変わらないと判断した。
		農産物直売所	昨年の同時期より来客数は増加しているが、客単価は低下しているため、トータルでは変わらないと判断した。
		小売業（菓子類）	今月の売上げと3か月前の対前年比がほとんど変わらない。
		小売業（薬品店）	新型コロナウイルスの感染患者が多少いたものの、風邪等の患者も少なく、客層としては慢性疾患の方が多かった。初診の方はあまり増えていないので、変わらないと判断した。
		小売業（食品）	商材の動きは悪いものの、売上げ等は大きく変わっていない。
		和食レストラン	コスト高が続いているが、全てを価格に転嫁することはできない。このような状況は3か月前と変わらない。
		割烹料理店	4月から止むを得ずコース料理の価格を上げた。客の予算は上がらず、渋々利用してくれている感じである。
		観光型ホテル	予約数が変わらないため、変わらないと判断した。
		観光型ホテル	客の利用状況について、目立った変化は見られない。
		ゴルフ場	来場予約状況等をみると、3か月前と比較し変化は見られない。
		クリーニング店	変わらないと感じる。
	企業	住宅販売会社	新規の問合せが少ない状況が続いているため、変わらないと判断した。資材の価格高騰と外注費の価格改定も目立つ。
		住宅販売会社	家賃の安い賃貸物件への問合せが増えているため、全体としては変わらない。
		製造業（その他）	これまでと変わらない受注数をほぼ維持している。顧客の多くが人件費の値上げに応じてくれている。
		製造業（一般機械器具）	受注、引合いが横ばいであるため、変わらないと判断した。
い	製造業（ゴム製品）	客先のオーダーから判断すると、変化はない。	
	建設業	報道等で景気は緩やかに回復していると言われているが、良くなっているという実感はない。当社も含め中小の事業所は、浮き沈みに一喜一憂しているのが現状だと思う。よって、変わらないと判断した。	
	建設業	安定した受注を確保しているが、件数はあまり変わらない。	
	運輸業（道路貨物運送業）	暑さで体調不良者が多いものの、支店の売上げは横ばいとなっている。	
	金融業	小売業は、商品価格の値上げや天候の影響、競合店との競争により、利益は減少傾向である。宿泊業及び飲食業は、夏季イベントにより需要が増加しており好調である。農林水産業は、天候の影響を受けながらも、例年並みとの話しを聞くことが多い。全体としては、3か月前と変わらない様子である。	
	不動産業	例年この時期は閑散期のため、変わらないと判断した。	
サービス業	国内の需要は3か月前と比較してほぼ同等なので、変わらないと判断した。		

変わらない	雇用	学校就業関係者	求人状況等には変わりはない。最低賃金は上昇したが、食料品等の値上がりが続いており、更なる賃金の上昇が望まれる。
		求人開拓員	鹿行地区の製造業を中心とした求人数がそれほど増えていないことと、応募者も増えていないことから、変わらないと判断した。また製鉄所の廃炉に伴う関連事業者への影響もあまり顕在化していない。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	物価高騰や人件費の増加などが続いているが、価格転嫁が追いついていない事業所が多く、利益率の減少が続いているため、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	備蓄米が市場に出回ったことで、米価格の上昇が一旦頭打ちになり安心感が出たが、予期せぬ価格高騰に備えているのか、衝動買いする客はあまり見かけない。実際、客単価は下降傾向にあるため、やや悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	客数の減少に加え、客単価も下がっている。ネット販売の売上げも下がってきているため、やや悪くなっていると判断した。
		洋食食堂	飲食店は夏季が繁忙期のはずだが、暑すぎて、ビール等も含めた冷たいものの出数が少ない。平日のランチや低価格の商品に人気があり、客単価が下がっているため、やや悪くなっていると判断した。
		旅行代理店	秋の連休が数回あるにもかかわらず、前4か月（5～8月）よりも売上げが下がっているため、やや悪くなっていると判断した。物価の高騰、旅行代金（ホテル・バス代）の値上げなどが起因していると思われる。
		タクシー運転手	3か月前と比べると暇になってきているように思う。2～3時間、待機の車が全く動かない時がしばしばある。よって、やや悪くなっていると判断した。1日の売上げも給料も減少しているのが現状である。このような状況が続けば、廃業する会社も出てくるかもしれない。
		ゴルフ場	物価の高騰が続き、加えて人材不足も深刻である。消費が落ち込み、安価な方になだれ込んでいるため、やや悪くなっていると判断した。
		理・美容店	客が以前より金を使わなくなったため、やや悪くなっていると判断した。
悪くなっている	企業	農業関係者	最近の温暖化の影響で、高温、少雨が続き、野菜類の生育に多大な影響が出ている。今後の品質、生産量についても不安がある。また、物価高による生産コストも引き続き上昇傾向であり、農家所得の減少も懸念されるため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（食料品）	材料や経費の値上がりに伴い価格を上げたところ、消費者の買控えがあり、利益が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（精密機械器具）	受注は増えているが、支払いはもっと増えているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（鉄鋼業）	経営環境が更に厳しくなっているため、やや悪くなっていると判断した。
		不動産業	物価高及び材料やガソリン等の価格が高いため、やや悪くなっていると判断した。
雇用	公共職業安定所	前3か月と比較して、新規求人数が減少している。物価等の上昇に伴う利益率の減少により、求人募集ではなく雇用維持に至ったためと考えられる。新規求職者数は、前3か月と同様に増加している。また、雇用保険受給資格決定件数も前3か月と同様に増加しているため、景気はやや悪くなっていると判断した。	
悪くなっている	家計	農産物直売所	店内に入ってくる客の数に変化はないが、何も買わないで帰る人がとても増えた。業者ではなく客から「景気が悪い」という話を聞くことが多くなったため、悪くなっていると判断した。
		小売業	売上げが悪い。他の地域の同業者や卸問屋とも近況報告をするが、厳しい話が多い。
		小売業（書店）	夏場の暑さもあり、売上げ、来店数ともに減少したため、悪くなっていると判断した。
		日本料理店	物価高の影響で、客の飲食店に行く回数が減っているため、悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（金属製品）	製鉄所の高炉が止まった影響により、悪くなっていると判断した。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	理・美容店	値上げせず価格を据え置きにした結果、客数が増えたため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	農産物直売所	来店客数、売上げ、客単価ともに上がっているため、やや良くなっていると判断した。
		小売業（生花店）	スポット的な需要が増えてきたため、やや良くなっていると判断した。しかし、需要が継続するかどうかは不透明である。
		洋食レストラン	最近、周辺会社からの弁当注文が増え、売上げが上がっているため、やや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	コロナ禍前の水準までは達していないものの、宿泊状況が少し改善されてきたため、やや良くなっていると判断した。特に、台湾のインバウンドが多く、問合せが増えている。
		タクシー運転手	お盆休みが終わり、人の流れが出てきているので、やや良くなっていると判断した。
		テーマパーク職員	夏休みに入り、子供の来場が増えたため、やや良くなっていると判断した。
	企業	農業関係者	令和7年産米価格は、7月頃の情報でも高騰した前年価格を上回る傾向にあった。米の収穫時期である8月以降もその情報を超える取引価格となり、水稲農家の収入は大きく向上したと思われるため、やや良くなっていると判断した。これに伴い、農業施設等の充実を考える農家も増えている。一方で、米価の高騰が消費者に与える影響（米離れ）が懸念される。
		製造業（食料品）	直売店への来客数が増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		建設業	通勤途中で工事現場が増えたように思うので、やや良くなっていると判断した。
	雇用	民間職業紹介業	若干ではあるが、求人依頼が増えてきているため、やや良くなっていると判断した。
	変わらない	家計	スーパー
家電販売店			季節用品など、必要に応じて購入は見られるが、景気が良くなっているとは感じられないため、変わらないと判断した。
スーパー			客数、客単価ともに大きくは変わらない。売上げは少しずつ増加しているが、3か月前と比較すると伸び率は横ばいである。
スーパー			売上げの前年比が3か月前と変わらない。
スーパー			客数、買上げ点数に変化がない。
小売業			売上増はやや鈍化しており、景気が顕著に上向いたとは言えない。但し、集客水準は依然高く、底堅さは維持しているため、変わらないと判断した。物価高を考慮すると、実質的な購買力は弱含みであり、購買行動は価格への感度が高い状態が継続している。カテゴリ別に見ると、好調な業種と伸び悩む業種が混在している状況である。
衣料品販売店			売上げでは、前年同月比で93.6%、3か月前の前年比で94.5%とあまり変わっていない。
日本料理店			来客数をみても、季節的変動を除けばそんなに変わらない。
タクシー運転手			売上げに大きな変化はない。
サービスエリア			依然として、物価上昇に伴う値上げが続いている。店舗によっては、客数の減少傾向も続いている。売上げ全体としては、若干増加しているものの、値上げ分が加算されたものであるため、景氣的には変化していないと判断した。
ゴルフ場			暑さ指数が高く、外出を控える状態が例年より長く続いているため、このままでは変化がないと思われる。
ボウリング場			客の動きに目立った変化がない。
レジャー施設			売上げに大幅な変化は見られない。
理・美容店		政治も含め、世の中が何も変わっていない。	
住宅販売会社	物価高の影響で、高所得者層以外の動きが悪くなっているため、全体としては変わらないと判断した。		

変 わ ら な い	企業	農業関係者	9月期（初旬まで）の来客数・客単価を6月期と比較すると、両者ともほぼ変わりはない。前年同期と比較しても、ほぼ変わりはない。
		製造業（窯業・土石製品）	特に変化を感じない。
		製造業（窯業・土石製品）	仕入材の価格アップが見られるが、客に理解を得て、今のところ価格に反映できているため、変わらないと判断した。
		製造業（非鉄金属）	トランプ関税については、現在のところ生産・受注に影響は出ていない状況である。よって、変わらないと判断した。
		製造業（その他）	通常品の受注は少ないが、スポット品（期間限定・数量限定の商品）を受注し製作しているため、それほど大きくは変わらない。
		建設業	物価や材料費の高騰が続いており、業況は変わらない。
		運輸業（倉庫業）	特に大きな変化はない。ただ、取引先の保管貨物の一部（海外向け輸出品）で、生産と販売の計画にずれが生じており、当社からの出庫が減り、在庫が増加している。
		金融業	物価高騰により仕入値は高くなっているが、そのまま売上げに転嫁することができず、収益に繋がっていないため、変わらないと判断した。米相場が安定していないことから、飲食業では大変苦慮している。
		不動産業	広告を出しても反響がないため、変わらないと判断した。
		不動産業	不動産業界としては5月・8月は需要期ではないため、取引相場・家賃相場とも目立った変動は見られない。
や や 悪 く な っ て い る	家計	小売業（米穀）	あらゆる物の価格が上がっている。あまりに急激な値上がりに客がついてこないため、やや悪くなっていると判断した。仕入れ価格の上昇率には自分もついていけない。
		食堂	お盆休みの後で、客が少ないため、やや悪くなっていると判断した。
		レストラン	8月のお盆休みが終わってから、売上げがぼつとしないため、やや悪くなっていると判断した。
		都市型ホテル	団体客やインバウンド客も減っているため、売上げが落ちている。宴会需要は昨年と同じくらいだが、宿泊客の減少分をカバーできる程ではないため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー会社	9月に入り、暑さバテなのか、夏休み・お盆休みの反動なのか、やや人の動きが鈍いように感じる。よって、やや悪くなっていると判断した。
		設計事務所	新規客の問合せや商談数は多くなっているが、建築資材の高騰などで建築費が値上がりしているため、成約に至る数は少なくなっている。それに加え、建築確認申請の条件が変わったことにより、審査期間が長期化しているため、着工できず困っている現場が多数ある。このような状況のため、やや悪くなっていると判断した。
企業	製造業（飲料）	米の価格は以前より安定している様子だが、物価高の影響で、色々な物が少しずつ値上がりしているため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（印刷・同関連業）	売上高、受注数が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。同業他社やその他の製造業の事業者も「暇ですよ。」と話す人が多い。	
雇用	求人広告	新卒採用や中途採用を取りやめた会社が多いため、やや悪くなっていると判断した。	
	学校就業関係者	求人のため来校した企業に受注の状況を伺った結果、3社中2社が減っていると回答したため、やや悪くなっていると判断した。因みに、受注が増加したと回答したのはプレス加工業で、同業の会社が事業停止することになったのが要因だという。金属加工業は、自動車のEV化が進み部品点数が減っていることから、受注が減少しているという。住宅用樹脂製品製造業は、資材・人件費高騰のため、戸建て住宅の建築数が減っているため受注が減少しているということだった。	
	求人開拓員	事業所を訪問しインタビューしたところ、景気の良さそうな所では、人員不足のため仕事の依頼を断っているとのことだった。また、依然として物価の上昇幅が賃金の上昇幅よりも大きいと感じているとのことだったので、やや悪くなっていると判断した。	

悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	買上げ点数や商品単価が減少しているため、悪くなっていると判断した。生活防衛意識が強くなっていると感じる。
	家計	都市型ホテル	夏になって予約のキャンセルが非常に増えたため、悪くなっていると判断した。明確な理由は分からないが、猛暑により外作業の業者が出張を取り止めたり、出張を減らしたりしたためではないかと思う。
	企業	製造業（食料品）	危険な暑さのため、悪くなっていると判断した。

## (5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	3か月前と比較して、ネイルサロンの売上げが伸びているため、やや良くなっていると判断した。	
		農産物直売所	直売所の売上げが増加しているため、やや良くなっていると判断した。	
		小売業	旅行や外食、車の買い替えなどの話が多少増えた気がするので、やや良くなっていると判断した。	
		旅行代理店	3か月前と比べ、顧客単価が上がってきたため、やや良くなっていると判断した。	
		タクシー事業者	会社にもよると思うが、当社は忙しく注文が増えたため、やや良くなっていると判断した。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	当社をはじめ、周辺の同業事業所において、高額な受注成約が見られるため、やや良くなっていると判断した。	
		不動産業	高額物件の動きが活発になってきているため、やや良くなっていると判断した。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	大きな変化はない。	
		コンビニエンスストア	売上げ、客数、客単価ともに、3か月前と比較して、前年比はほぼ変わっておらず、横ばいと感じる。例年よりも暑すぎる日が多く、特に日中は外出を控える呼び掛けがあったことから、人が活動しにくかったものと推察する。	
		衣料品販売店	現在は、学生用品が主流で、一般客の来店が見込めない。よって、変わらないと判断した。	
		イタリア食堂	イベントの時期等の売上げは良いが、それ以外の時期は開店休業のような状態である。地方の飲食店は特に客足の落ち込みが激しく、宅配弁当などでどうにか凌いでいる状況のため、変わらないと判断した。明るい材料としては、会社へのケータリングが高単価で入るようになったことくらいで、コロナ禍前のような安定した売上げはもう望めないのだろうかと思っている。	
		和食レストラン	物価や人件費が上がっているものの、売上げ等に大きな変化はない。	
		タクシー運転手	客層が高齢化しているものの、売上げは大きく変わらない。	
		観光型ホテル	売上げの増減があまりないため、変わらないと判断した。	
		道の駅	客の消費動向には変化が見られない。	
		道の駅	大きなイベントもなく、客の需要も特に変化がない。	
		ゴルフ場	来客数は増加しているが、シーズンのなものであり、平年並みの感覚のため、変わらないと判断した。	
		レジャー施設	良いところは伸びているが、悪いところはそのままの状態に動かないような感覚があるので、変わらないと判断した。	
		理・美容店	3か月を振り返ると、可もなく不可もなくという感じで、時間だけが過ぎた印象である。	
		商店街代表者	ガソリン等の値段も若干安くなってきており、事業者や消費者にとって経費削減に繋がっているものの、まだまだ景気に関しての感覚は変わらない。	
		クリーニング店	季節要因で減少傾向かと思いきや、点数等の減少はそれほどない。ただ、暑さによる来店客数減はあると思う。	
		設計事務所	あまり変化は感じられない。	
		企業	農業関係者	仕事をしている中で、景気が良くなっている・悪くなっていると判断できる材料が特にないため、変わらないと判断した。
			農業関係者	現在、梨の出荷が折り返しを迎えている。販売単価は好調である。米の価格も昨年同様高値と好調だが、高温障害による収量減に加え、生産資材も高止まりしており、大きく景気が変わったようには見えない。
製造業（食料品）	景気が良くなる要素がないため、変わらないと判断した。			
製造業（電気機械器具）	依然として物価高が続いており、景気が良くなっているとは思えない。よって、変わらないと判断した。			
製造業（電気機械器具）	生産増に伴う増員要請が継続しているため、変わらないと判断した。			

変 わ ら な い	企業	製造業（その他）	受注量が3か月前と変わらない。
		製造業（化学工業）	トランプ関税の影響などで一部不安感はあるものの、全体として国内・海外の顧客からの受注は好調を継続している状態であり、現状では大きな変化は感じられない。
		建設業	特に変化を感じない。
		金融業	金利上昇により、企業の投資が控えられているように感じる。人材不足は依然として解消しておらず、供給不足に変化はない。
		サービス業（コンサルタント業）	3か月前と大きな変化はない。
雇 用	求人広告	特に良くなったと感じたことも、悪くなったと感じたこともなかったので、変わらないと判断した。	
	人材派遣業	8月の派遣依頼は例年通り低調で、3か月（6～8月）通して昨年と比較しても大きな変動はなかった。圏央道周辺の市町村では新しい倉庫が立ち上がり、部分的に雇用が増えたが、他に波及することはなく効果は局所的だった。	
	学校就業関係者	企業に関しては、求人について上向き傾向のように感じるものの、家計に関しては、長引く商品（乳製品、野菜・米など）価格の高騰が生活に大きな影響を及ぼしていると感じる。よって、社会全体の景気としては、今までと変わらないと判断した。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	売上高は商品価格を値上げしたので微増しているが、利益は下がると思う。よって、やや悪くなっていると判断した。
		家電販売店	毎年この時期は閑散期ではあるものの、特に、ここ2か月間の店舗客数の減少傾向が加速している。客の購買欲も下がっており、「壊れたから買う」といった感じで、最低限の買物に終始している感があるため、やや悪くなっていると判断した。
		自動車販売店	トランプ関税の影響が不明な中では判断が難しいが、貿易赤字に進む可能性があり、やや悪くなると判断した。
		小売業（酒類）	物価高が叫ばれ続けている。天候不順や猛暑のため人が動かない。稲刈りシーズンなどもあり、飲食店等に出かける機会が減少している。様々なことが影響して、酒類の売れ行きは芳しくない。よって、やや悪くなっていると判断した。
		日本料理店	猛暑により、野菜や鮮魚等の食材費が上がっている。また、人の出も良くないように思える。加えて、人件費も高騰しているため、利益が圧迫されている。よって、やや悪くなっていると判断した。
		都市型ホテル	米の価格高騰が著しく、原価率が上がっているため、やや悪くなっていると判断した。
		レジャー施設	来年度の予算作成時期だが、人件費や委託料の高騰により、どうにも予算が作成できない。サービスを切り捨てて何とかしたとしても、そのサービスを商売にしている人もいるので、中小企業の経営は非常に厳しい。よって、やや悪くなっていると判断した。
		設計事務所	人の動きが鈍く感じられるので、やや悪くなっていると判断した。
雇 用	企業	製造業（光学ガラス加工）	半導体業界の中でも生成A I 関連以外の分野で受注量が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。同業他社では、半期の決算短信が営業赤字となっているところもある。
		製造業（印刷・同関連業）	売上げは上がっているが、利益率は下がっているため、やや悪くなっていると判断した。売上げを維持しているのは、スポットの仕事でカバーしているからであり、従来の得意先だけで見ると悪くなっている。
		製造業（金属製品）	得意先各社とも、少ロットの注文が多く、まとまった注文は引き合いが少ないため、やや悪くなっていると判断した。
求人開拓員	60歳以上の求職者が増加傾向にある。年金受給年齢層からの内職相談も増えている。これらは、物価高の影響と考えられることから、やや悪くなっていると判断した。		
家計	製茶販売	来店客数が減ったため、悪くなっていると判断した。	
	レストラン	あまりの暑さでドッグカフェに客が来ない。これに伴い売上げが減っているため、悪くなっていると判断した。	
企業	製造業（金属製品）	受注状況が少ないため、悪くなっていると判断した。	

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	小売業（弁当・惣菜店）	人流の増加傾向は今後も続くと考えられるため、やや良くなっていると判断する。
		ドライブイン	最低賃金の改定に伴うベースアップに期待して、やや良くなっていると判断する。年末に向けて、消費回復の起爆剤になってほしい。
	企業	製造業（電気機械器具）	昨年度、同業者1社が倒産し、その分受注が増加傾向にあるため、やや良くなっていると判断する。今後、受注増に対応するため、機械を1台導入する予定である。
		製造業（電気機械器具）	中国輸出が2025年度下期より若干伸びるとの情報があるため、やや良くなっていると判断する。
変わらな	家計	商店街代表者	3か月後も物価高は収まらないと予想されるので、状況は変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	売上げは、3か月後も大きく変わらないと思う。
		自動車販売店	原価高騰により値上げが度重なり、生活水準の維持が最優先になっている。10月に最低賃金のアップが控えているが、消費活動は活発にならないと思う。よって、3か月後も景気は変わらないと判断する。
		小売業（水産物）	高級食材があまり売れない。物価高騰が収まるまでは、消費者の購買意欲は低迷したままだと思う。
		小売業（時計）	月によって売上げの増減はあるが、大きくは変わらないと判断する。
		スナック	物価は上がる一方なのに収入は不安定な状態が今後も続きそうなので、変わらないと判断する。
		日本料理店	材料費や人件費の上昇が不安である。また、国内外の政治経済の動きが不安定なものも不安要因だが、3か月スパンでは景気は変わらないと判断する。
		観光型ホテル	物価高騰が引き続き継続しているため、変わらないと判断する。
		旅行会社	今以上に活発になるとは思えないので、変わらないと判断する。物価高が大きく影響していると思う。
		タクシー会社	3か月先も同じような状況が続くと思われるため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	市内の大企業が撤退したこともあり、人口流出が避けられない状況である。この先も、現状維持が精一杯だと思うので、変わらないと判断する。
		レジャー施設	今の景気の上昇は、企業の内部努力による経費削減といったミニマム化等によるものであって、総収入が増えない限り、本当の景気上昇は見込めない。景気回復への課題は、賃上げと物価高だが、3か月程度のスパンで解決できるものではないため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	これからの時期は台風や秋雨前線の影響を受けやすい。年末にかけては良くなるかもしれないが、大きくは変わらないと思う。
		い	ゴルフ場
	ゴルフ場	季節が秋に向かい過ぎやすくなることで、猛暑で外出を控えていた人達が多少活動的になると推測する。但し、残暑が厳しくまた長引く場合は、活動の幅は限定的だと思う。また、猛暑の影響で、農作物や畜産物の生育状況が悪いといった話が聞こえているので、今後は野菜や乳製品といった食品の価格高騰が予測される。物価が更に上がれば、節約傾向も変わらず、総合的には景気が良い状況とは言えないと思う。よって、変わらないと判断する。	

変 わ ら な い	企業	林業関係者	毎年の傾向や季節柄を考慮しても、大きく変動はないと思う。
		製造業（食料品）	更なる物価高が続いていくと予想されるが、賃金は上昇傾向にあるため、全体としては変わらないと判断する。最低賃金の上昇は、労働者にとっては好ましいことだが、中小企業側にとっては経営を圧迫する厳しい状況が続くことになる。
		製造業（金属製品）	大手の動向が不透明であり、先行きの不安が拭えないものの、3か月程度では大きく変わらないと思う。
		製造業（精密機械器具）	引き続き、良くもなく悪くもなく、状況はあまり変わらないと思う。
		製造業（精密機械器具）	受注に増減が見られないため、今後も変わらないと判断する。
		建設業	景気は良くも悪くもないという取引先が多いので、変わらないと判断する。
		建設業	12月以降の工事状況が未定なので、前年度並みと想定し、変わらないと判断する。
		金融業	今後も物価上昇基調は続くと思われ、消費者動向にも影響を及ぼすことから、今後3か月先の景気は変わらないと思料する。
		不動産業	年末は人の動きが少なくなる時期ではあるが、例年と大きくは変わらないと思う。
		非製造業（その他）	新規予定の案件はなく、継続作業予定になるため、変わらないと判断する。
雇 用	公共職業安定所	求職者からも事業所からも、特に景気が良くなるとの話は聞こえてこないの で、現状と大きく変わらないのではないかと。	
	求人開拓員	県内の有効求人倍率が夏場からやや下降気味であることや物価上昇がマイナス 要因ではあるが、10月からの最低賃金アップにより、大きな変動はないと思慮 される。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	お歳暮シーズンに入るが、お盆ギフトの売上げは少々しなかったもので、今回 も厳しいと推測し、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	買控えと来店客数の減少傾向は今後も続くと思料されるため、やや悪くなっ ていると判断する。ガソリン価格が安くなる等の話が出ない限り、景気の好転は 厳しいのではないかと。
		コンビニエンスストア	最低賃金は上がっていくが、パート・アルバイトへの賃金抑制に動く企業の話 を聞いているので、実質的な賃金アップには繋がらないと推測する。そんな 中、物価は更に上昇すると見込まれるので、現状より少し厳しくなっていくと 思う。よって、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（食料品）	10月以降、再び資材等が値上げになる旨の連絡が入った。また、10月からは最 低賃金の改定もあるため、やや悪くなっていると判断する。
		レストラン	最低賃金の上昇率が凄すぎて、人件費だけで相当な額になる。売上げは現状維 持できると考えても、資金繰りが非常に厳しくなっていくであろうと思料され るため、やや悪くなっていると判断する。
		観光型ホテル	原材料の高騰や人件費（最低賃金）の上昇を想定すると、やや悪くなっている と判断する。
		ゴルフ場	10～11月の予約が前年度より3割程度少ない。特に11月は前年対比で1/2しか予 約がないため、やや悪くなっていると判断する。
		写真店	年末にかけて、現在より売上げそのものは上昇していくはずだが、原材料費等 による経費高騰や年賀状需要の極端な減少などが影響し、例年に比べると減益 になることは間違いないため、やや悪くなっていると判断する。
美容室	来店周期が長くなったり、より安価な店へ流れる客が増えているため、やや悪 くなっていると判断する。		
企業	製造業（電気機械器具）	エネルギー関連は、注残が多いので作業は確保できているものの、新規受注が 減少している。液晶・半導体製造装置関連は、受注、作業が減少し、当面回復 が見込めない状況のため、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（その他）	食品の値上げは今後も続くと思料されるため、やや悪くなっていると判断す る。今後は、旅行などをより一層控えるようになるのではないかと。	

やや悪	雇用	求人広告	秋から冬に向けて、最低賃金の改正があり、募集広告は減少していくと想定している。また、色々な理由で閉業している企業も一定数あり、求人募集をする企業総数が減少しているように感じる。よって、やや悪くなっていると判断する。
		学校就業関係者	取引業者などとの会話から、やや悪くなっていると感じた。
悪くなっている	家計	衣料品販売店	客層として年金生活者が多いので、価格高騰には敏感に反応する。外出用の衣料品や服飾雑貨には特に敏感である。物価高は今後も継続すると見込まれることから、景気は悪くなると判断する。
		設計事務所	周辺の動きが悪い。よって、悪くなっていると判断する。
	企業	水産業関係者	悪くなる要因は多々あるが、良くなる要因がないと感じるため、悪くなっていると判断する。
		製造業（化学工業）	人件費の高騰や物価高が収益を圧迫しているため、悪くなっていると判断する。

(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業(食料品)	暑さが落ち着くことで、人流の回復が期待できる。また、大口の受注回復も予定しているため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	受注している仕事があるため、やや良くなっていると判断する。良くなってもらわないと困る。
		自動車販売店	物価高の懸念はあるものの、取引している客の状態は良いため、やや良くなっていると判断する。
		農産物直売所	行楽シーズンや年末商戦の広告、宣伝により、景気の一時的な回復が見込めると推測されるため、やや良くなっていると判断する。
		バス運転手	プロスポーツチームの成績の好調さが、最終盤において更に観客を呼ぶことが予想されるため、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	総理大臣が交代する事が確定しており、新しい総理には、景気や物価高への早急な対策が期待される。期待を込めて、やや良くなっていると回答する。
		理・美容店	暑さのため来店を我慢していた方が、涼しくなり来店するのではないかとこの願いも込めて、やや良くなっていると判断する。
		住宅販売会社	年末から年度末にかけては、住宅需要が増加し、賃貸借の需要も増えてくるため、やや良くなっていると判断する。
	企業	製造業(金属製品)	中部圏自動車メーカーからの受注数情報が2025年後半に向けて増加するとの情報があるため、やや良くなっていると判断する。
変 わ ら な い	家計	商店街代表者	あまり大きな変化がなく、良くも悪くもならないように思う。
		小売業	物価高騰を背景とした生活防衛志向により、当面は慎重な買い方が続くと思われる。よって、変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	市場環境に変化はなく、変動する要因が見られない。
		酒・各種商品小売業	原材料費等の高騰に伴う値上げが止まない限り、今後も酒類業界の景気は良くならないと思う。
		小売業	客単価は若干上昇しつつも客数が大幅に減少する現在の傾向は、今後も継続すると予想され、特に目立った変化は期待できない。
		楽器販売	個人客の動きは多少出てきたが、今後の状況は未知数なため、変わらないと判断する。
		日本料理店	外出できるような気温にならないと人流が増えることは考えにくいので、変わらないと判断する。
		日本料理店	全ての物が値上がりしており、外食に使える金は少なくなると思う。よって、今後も客足は鈍いまま変わらないと判断する。
		観光型ホテル	先行予約の受注スピードが変わらない。
		旅行代理店	日本だけでなく、世界の政治経済の動き次第でどう動くか分からないため、変わらないと判断する。
		道の駅	円安で外国人の消費は多いが、まだまだ一部である。減税や補助金、現金給付など、消費を喚起するような施策が行われないと消費は伸びて来ないと思う。よって、3か月後も現状と変わらないと判断する。
		レジャー施設	米の販売価格は下げ止まっているものの、景気は今後も好転する兆しが見えない。政府の景気対策も先行き不透明な状況で、上昇する雰囲気は感じられない。よって、変わらないと判断する。
		スーパー銭湯	景気は少しずつ回復傾向にあると感じるが、最低賃金の大幅な上昇によって物価高が進行することが予想されるため、景気としては変わらないと判断する。
写真店	例年通りの仕事内容のため、今後3か月先もほぼ同じである。		
設計事務所	建設資材の高騰や職人不足は変わらず、工事発注の不調傾向も変わらないと予想する。従って、今後も現状維持で推移するのではないかと。よって、変わらないと判断する。		

変 わ ら な い	企業	農業関係者関係者	良くなる材料が見当たらないので、変わらないと判断する。
		製造業（精密機械器具）	良い要因と悪い要因があり、相殺しそうなので、変わらないと判断する。
		製造業(精密機械器具)	先のことは正直わからない。よって、変わらないと判断する。
		建設業	物価の上昇に対し給与の上昇が追い付いていない状況は、今後も変わらないと判断する。
		運輸業	今後も、輸送量や価格交渉が好転するとは考えにくい。また、慢性的な人手不足も継続すると予想されるので、変わらないと判断する。
		運輸業（道路貨物運送業）	米国の関税問題により、荷動きの鈍化が懸念されているが、身の回りではあまり感じない。しかし、好転する要素もないため、全体として変わらないと判断する。
		金融業	中小企業では、最低賃金引上げに伴う人件費の増加が見込まれる。ただ、正社員の賃上げが可能な企業は一部であり、今後3か月先の景気回復は見込めないと思慮する。
		情報通信業（情報サービス業）	極端に悪化はしないと思うが、好転もしないと思われるので、変わらないと判断する。
	雇用	公共職業安定所	管内の有効求人倍率は令和7年3月以降減少しているが、減少率は僅かであるため、変わらないと判断する。しかし、令和7年10月12日から最低賃金が69円上がり1,074円となるため、今後の動きに影響が出る可能性はあると思う。
		学校就業関係者	企業側の採用活動が数か月で大きく変化することはないと考えられる。
求人開拓員		利用者数が大きく変わっておらず、求人数も大きな変化がない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	安価な商品が売れ、高額商品が売れていないため、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	食品メーカーが、最低賃金の上昇による値上げを公表しているため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	人件費増などを考慮して、やや悪くなっていると判断する。
		都市型ホテル	現在の予約状況を昨年同時期と比較すると、かなり苦戦している。今月以降にまた原料値上げがあるが、全てを売価に上乘せすることもできず、利益及び全体の売上げ自体が下がると予測されるため、やや悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	このところの猛暑の影響等により、客数が減少傾向にある。この傾向は続くと思われるので、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	コスト高が止まらない。資材等に留まらず、10月からは人件費も更に上がる。客からも景気の良い話が出てこないため、やや悪くなっていると判断する。このような状況でも、最低賃金が上がり続けるのは如何なものだろうか。
		製造業（窯業・土石製品）	受注が少ないため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（一般機械器具）	米国の関税により輸出が鈍化すると、景気に下押し圧力がかかってしまう。自動車業界の利益が大きく減少してしまうと、自動車関連の仕事割合が多い当社は影響を強く受けてしまうため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（輸送用機械器具）	原材料費、エネルギー費、労務費の上昇は今後も継続すると見込まれる中で、トランプ関税の影響が大きくなることが想定されるため、やや悪くなっていると判断する。
		不動産業	建築関連の価格高騰は上限なく続いており、住宅やマンション販売などへの価格転嫁は限界を迎えている。このような状況は今後も継続すると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
雇用	求人広告	慢性的な労働力不足が解消できず、事業が伸び悩んでいるため、やや悪くなっていると判断する。	
悪	家計	割烹料理店	今年の新米も昨年以上に高騰している。このような状況では、経営努力をしても収益を増やすことは至難の業である。飲食業としては、今後の景気は悪くなっていると判断する。

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	コンビニエンスストア	年末に向けて、暫定税率の廃止によるガソリン価格の引き下げがあるらしい。これに伴い、人の動きが活発になり、景気は良くなると思う。
やや良くなっている	家計	小売業（薬品店）	寒くなってくると、風邪症状の患者が増えてくると思うので、やや良くなるかと思う。
		観光型ホテル	予約数は変わらないが、1つの団体の人数が少し増えているため、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	最低賃金の引き上げに伴い、金を使う人が少しでも増えてほしい。希望も込めて、やや良くなっていると判断する。
		運転代行	3か月先の12月は、忘年会シーズンでもあり、人の動きも間違いなく増えると思う。既に12月の予約も入っているため、やや良くなっていると判断する。
		道の駅	最低賃金が大幅に上がるため、1人当たりの手取りも増加すると思われる。よって、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	物価高は止まらず猛暑続きではあるが、秋の味覚やイベントなどが増えることから、やや良くなると思われる。
	企業	建設業	世界の経済状況次第だと思うが、受注生産の建設業は、希望的観測であっても「景気は良くなってきている」と思いたいので、やや良くなっていると判断する。これ以上、トランプ関税ショックに振り回されたくない。
		運輸業（道路貨物運送業）	今後、支店が増えていく予定なので、やや良くなっていると判断する。
		不動産業	繁忙期に向けて動き出す時期なので、やや良くなっていると判断する。
	雇用	学校就業関係者	最低賃金の上昇に伴い、賃金上昇が期待できると思われるので、やや良くなっていると判断する。
		求人開拓員	事業所訪問をした際、製造業を中心に旺盛な求人を感じるため、やや良くなっていると判断する。しかし、若い求職者が少なく、アンマッチな求人もみられる。
	変わらない	家計	スーパー
スーパー			食品価格の上昇傾向は今後も続くと思われるため、変わらないと判断する。
家電販売店			売上げや客数は、現状と同程度で推移すると見込まれるため、変わらないと判断する。
農産物直売所			良くなる要素が見当たらないため、変わらないと判断する。
農産物直売所			昨年の同時期より来客数は増加すると見込まれるが、客単価は低下傾向のため、トータルでは変わらないと判断する。
小売業（食品）			株価はそれなりに推移しているが、実質は変わらないと思う。
小売業			物価上昇や節約志向が続く中で、消費単価の大幅な回復は見込みにくく、景気の改善にまでは至らないと思う。よって、変わらないと判断する。
和食レストラン			客の収入が大幅に上昇することは見込めないため、コスト上昇分の価格転嫁が困難な状況は今後も続く予想される。よって、変わらないと判断する。
割烹料理店			給料や時給が上がっている話は聞くが、飲食の予算が上がらないため、変わらないと判断する。
ゴルフ場			それなりの対策が実施されなければ、状況は変わらないとみている。賃金も少しずつベースアップしているが、まだまだ物価高に対応できるレベルではない。景気の回復が実感できる日は程遠く感じる。
ゴルフ場			この先の来場予約進捗をみると、悪くはなっていない気がする。ただ、社会全体が値上げの風潮になっているため、その分他の支出を抑えている感がある。
理・美容店			物価高に加えて、安定しない政治に対する不安感もあるため、変わらないと判断する。
クリーニング店	変わらないと思う。		

変 わ ら な い	家計	住宅販売会社	新規の間合せが少ない状況は今後も継続すると思われる。イベントやSNS発信も効果がないため、変わらないと判断する。
		住宅販売会社	住宅の建築費が高騰している。貸家の修理費も高くなっている。長期スパンでは影響があると見込まれるが、3か月スパンでは大きな変化はないと思う。
	企業	製造業（一般機械器具）	受注、引合いが横ばいであるため、変わらないと判断する。
		製造業（精密機械器具）	特に変化は感じられない。
		製造業（ゴム製品）	客先から3か月先までの発注予想をもらっているが、現状と変化はない。
		製造業（鉄鋼業）	経営環境の改善の見込みがないため、変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	製鉄所の高炉が止まった影響は、今後も継続すると思う。
		建設業	依然として続く資材や人件費の高騰により、企業の設備投資計画に影響が及んでいる様子が伺えるものの、受注は安定的に確保しているので、変わらないと判断する。
		保険業	今後も、10月と来年1月に保険料の引き上げが予定されている。仕方ないと理解してもらえとは思いますが、景気は変わらないと予想する。
	サービス業	海外情勢は、ウクライナ戦争や中東紛争が継続しているほか、トランプ関税の影響もあり、不安定である。いずれも、今後急激に回復する可能性は少ないと想定されるので、変わらないと判断する。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	10月から最低賃金が改定され、事業所の負担増加が見込まれる。それに伴い働き控えが予想され、労働者不足から生産性の向上が期待できないため、やや悪くなっていると判断する。融資資金の使途についても、設備資金の利用が少なく、人件費等の運転資金が多いように感じる。
		衣料品販売店	物価上昇が止まらない状況では、生活必需品以外のものに金を使わない傾向が続くと思われるため、この先の景気はやや悪くなると判断する。
		小売業（菓子類）	10月からまた原材料が値上がりする。これに伴い、利益率が下がると思われるので、今年いっぱい景気はやや悪くなると思われる。
		洋食食堂	秋には最低賃金のベースアップが控えている。食材の単価も上がる一方で、経費の上昇が止まらない。多少売上げが上がっても経費上昇分を賄えないため、やや悪くなっていると判断する。
		旅行代理店	本来であれば、秋口（9～12月）は旅行需要が増えるはずだが、例年と比べて予約件数や客単価が低下している。売上げも低調なので、やや悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	現状を踏まえると、これからも景気が良くなることはないと思う。反対にもっと悪くなるかもしれない。タクシー業界だけでなく、全体の景気を考えて何とかしなければいけないのではないかと感じる。
企業	農業関係者	最近の温暖化の影響で、高温、少雨が続き、野菜類の生育に多大な影響が出ている。今後の品質、生産量についても不安がある。また、物価高による生産コストも引き続き上昇傾向であり、農家所得の減少も懸念されるため、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（その他）	物価上昇により利益が圧迫されている。売値に物価や人件費の上昇分をすべて転嫁できないため、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（食料品）	政府は景気対策を何もしていない。このところの閉塞感はだんだん酷くなっている。このまま政府の景気刺激策がなければ、閉塞感は更に酷くなる。よって、やや悪くなっていると判断する。	
	金融業	建設業が、資材高騰や労働者不足の影響で鈍化もしくは停滞することが予想されるほか、宿泊業は年末イベントにより横ばい、飲食業も材料高騰及び人件費の引上げにより利益は減少傾向と見込まれる。政治の不透明感の影響を受けるため、先行きはやや悪くなると予想する。	
	不動産業	新築棟数が少ないため、やや悪くなっていると判断する。業界に活気がないように思う。	
雇用	公共職業安定所	景気の先行きは不透明だが、新規求人数が減少し、新規求職者数及び雇用保険受給資格決定数が増加する傾向は、今後も続くと思われ、景気はやや悪くなっていると判断する。	

悪	家計	小売業（書店）	夏の暑さが落ち着き、涼しくなっても、売上げや来店数の回復は期待できない。食品等の生活必需品の値上げが続き、趣味に金を落とす人が減っているため、先行きは悪くなっていると判断する。
		日本料理店	今後景気が良くなる事業などもなく、全体的に消費が冷え込んでいる。人口は減少し、地方自治体の財源も減少している。景気の良い話を聞かないため、悪くなっていると判断する。

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	タクシー運転手	12月は繁忙期であるため、例年通り良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	これから先の予約状況を見ると、11月迄ほぼ満員で、土日に関してはコンペが多く、ほとんど予約が取れない状況である。また、売店のお土産が良く売れている。コンペの開催件数が増えたことが要因だと思うが、お土産を買えるということは、少し懐に余裕が出てきたためとも考えられる。このようなことから、景気は良くなってきていると判断する。
やや良くなっている	家計	農産物直売所	大きな災害等がなければ、このまま少しずつでも良くなっていくと思える。
		都市型ホテル	サービス業は下期で稼ぐ業種なので、3か月後は繁忙期となる。忘年会・新年会シーズンのため、現状よりは良くなると見込んでいる。
		都市型ホテル	年末ということもあり、宴会需要の増加が見込まれる。忘年会は客単価も上がるので、やや良くなっていると判断する。反対に、宿泊需要は低迷する時期なので、今から営業をかけて団体客の取り込みを強化していきたい。
		都市型ホテル	今まで悪かったものでこれ以上悪くはならないと思う。暑さが収まれば、業者の出張も増えてくると思うので、やや良くなっていると判断する。
		タクシー会社	ここ数年、年末に向けての繁忙期が、若干コロナ禍前に戻りつつあるようにも感じるので、期待を込めて、やや良くなっていると判断する。
		サービスエリア	物価高の傾向は今後も続く予想するが、賃金の更なる上昇により個人収入が増加すれば、今後の景気回復に繋がってくると思うので、やや良くなっていると判断する。諸外国や国内の情勢も日々変化しており、今後の景気に影響してくると思う。
企業	企業	農業関係者	県南地域では9月以降も米の収穫が行われ、引き続き各水稻農家で米の販売が行われる。現状、米価が下がる見通しはなく、当面は高値で推移すると見込まれる。よって、今後もやや良くなっていると判断する。
		製造業（食料品）	予約数が増加しており、今后来客数の増加が見込まれるため、やや良くなっていると判断する。
		建設業	年度末までの仕事が増えているため、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	家電販売店	今後も景気が良くなる雰囲気は感じられないため、変わらないと判断する。
		スーパー	日々の客の買い回りの様子を見て、変わらないと判断する。
		スーパー	国の政策が変わらなければ、国民の生活は変わらない。
		小売業	物価上昇や節約志向が続く中、消費単価の大幅な回復は見込みにくく、景気が良くなるまでには至らないと思う。よって、変わらないと判断する。
		小売業（生花店）	つくばエクスプレス沿線周辺地域へ人口と消費需要が集まりつつある。一方で、周辺部の市町村では、継続的な需要が見通せないため、トータルでは変わらないと判断する。
		衣料品販売店	毎月の前年比は、ほぼ横ばい状態で見られない。3か月先もこの状況は変わらないと思う。
		小売業（米穀）	物価高は暫く続くと思う。
		日本料理店	日経平均株価が年末には50,000円を超えるかもしれないと言われていたり、最低賃金が1,100円を超えたりと景気が良さそうな話がある反面、政府による補助金の停止により、電気やガスが値上がりしたり、米価は相変わらず高止まりしていたりするので、相殺されて消費マインドは変わらないと判断する。
		食堂	物価高の影響もあり、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	政治不安のため、景気は良くならないと思う。
		ボウリング場	10月より最低賃金の改定が適用されるが、正規雇用の人々には恩恵がないので、景気が良くなるとは思えない。よって、変わらないと判断する。
		レジャー施設	売上げの大きな変化は見込めない。
理・美容店	3か月後も大きくは変わらないと思う。ただ、これ以上物価が上がり続けられれば、運営費が嵩み利益が圧迫されてしまうことを懸念している。		

変 わ ら な い	家計	理・美容店	政治など、世の中は今後も何も変わらないと思う。
		住宅販売会社	物価高の影響で、高所得者層以外の動きが鈍化する傾向は続くと考えため、業況は変わらないと判断する。
	企業	農業関係者	2年連続で生産者米価は上昇しているが、資材及び燃料費の高騰、そして納税額の増大から、依然として支出に対しては慎重になっているため、変わらないと判断する。
		製造業（飲料）	年末に向けて外出の機会は増えると思うが、ガソリン価格がやや高めなので、例年並みで大きく変わることはない判断する。
		製造業（印刷・同関連業）	景気が好転する材料が見当たらないため、変わらないと判断する。アメリカの関税についても未だに不明な点が多く、今後更に地域の景気の足を引っ張ることになるのではないかと心配している。
		製造業（非鉄金属）	トランプ関税の税率については解決したものの、自動車関連15%の課税についてどのような影響が出るかは、まだ不透明である。よって、変わらないと判断する。
		製造業（その他）	関税問題が落ち着かない限り、先行きの見通しは分からないが、大きくは変わらないと思う。
		建設業	ガソリン税の暫定税率廃止に期待したいが、3か月程度では業況に変化はないと思う。
		運輸業（倉庫業）	今後3か月も、例年通りの荷動きとなる見通しである。
		金融業	物価の上昇はこの先も継続すると推測されることから、収益改善は難しく、3か月先も変わらないと思われる。
不動産業		購入意欲を向上させる材料がないため、変わらないと判断する。	
不動産業	11～12月には特段のトピックスがないため、変わらないと判断する。		
雇用	民間職業紹介業	大きな増産等の話が出ていないため、変わらないと判断する。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	今後も、一部商品の単価が上がる見込みであり、買上げ点数が上がることは難しいと思われる。客は値段に対して非常にシビアなため、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	今後も商品の値上げが多く予定されており、これに伴う買控えが増加すると見込まれるため、やや悪くなっていると判断する。
		洋食レストラン	コロナ禍明けから近隣に飲食店が増えている。ライバル店が増加した影響で、土日祝日の来店客数が減っているため、やや悪くなっていると判断する。
		レストラン	物価高の中、どうしても飲食店は敬遠されがちなのかなと感じるため、やや悪くなっていると判断する。
		テーマパーク職員	閑散期に入るため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（食料品）	今後も物価高が継続するとと思われるので、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	出荷数量が減少しているため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	価格上昇にいつまでも耐えられないという話を聞くことが最近多くなったので、やや悪くなっていると判断する。
	雇用	求人広告	最低賃金増の影響が出てくると思うので、やや悪くなっていると判断する。
		学校就業関係者	住宅用樹脂製品製造業の担当者と話をした際に、2026年から開始される二酸化炭素排出量取引への対応に苦慮しているという話があった。この企業は、カーボンニュートラルへの対応のため、環境に優しい製品の開発を進めているが、環境に優しい製品はコストが高く、負担は大きいと話していた。3か月後は2026年に入る直前でもあり、企業の負担増に伴い景気がやや悪くなると判断する。
求人開拓員		食品だけでも毎月1,000品目が値上がりしている。輸出企業は、関税がどうなるのかわからず困っている。不安要素が多く先行き不透明なため、やや悪くなっていると判断する。	

悪	家計	コンビニエンスストア	先行きが不透明なため、悪くなっていると判断する。
		設計事務所	住宅ローンの金利が上昇する。また、建築費も一層の値上がりが予想されるため、低所得者はますます住宅を購入できなくなる。収入は金利上昇に伴って増えないため、住宅ローンの返済比率がオーバーする客が多くなると見込まれる。このようなことから、今後の景況は悪くなると判断する。

## (5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント	
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	10月以降、最低賃金が大きく上昇し、消費動向が少し上向く可能性があると思うので、やや良くなっていると判断する。	
		農産物直売所	収穫の秋から年末に向けて、直売所の売上げ増加を見込んでいるため、やや良くなっていると判断する。	
		小売業（酒類）	年末年始を迎え、人や金の動きが今よりは活発になってくれると信じたい。希望も込めて、やや良くなっていると判断する。	
		小売業	仕事や生活に対しての愚痴をあまり聞かなくなったため、やや良くなっていると判断する。	
		日本料理店	暑さが収まれば、人の出も回復するという期待を込めて、やや良くなっていると判断する。	
		道の駅	少しずつ観光需要が増えているように思えるので、やや良くなっていると判断する。	
		道の駅	今後イベントが増えて、客の需要が増えると思込まれるため、やや良くなっていると判断する。	
		レジャー施設	株価がこのまま高い水準で安定してくれれば、ある程度良い状態になってくると思う。	
	企業	農業関係者	米の買取金額が高騰し、生産者の手取り金額が増え、消費意欲の向上や設備投資の増加が予測されるため、やや良くなっていると判断する。	
		製造業（窯業・土石製品）	今後も、高額商品の受注頻度が増えてくると思われるので、やや良くなっていると判断する。	
		製造業（その他）	円高に傾き、原価が下がると思うので、やや良くなっていると判断する。	
		不動産業	転居の際、現状より高価な物件へ借り換える客が増えているため、やや良くなっていると判断する。	
	変わらな	家計	商店街代表者	特に変化を感じない。
			商店街代表者	総裁選の行方が喧しいが、誰がなってもすぐに結果は出ないと思う。よって、変わらないと判断する。
スーパー			大きな変化はないと思う。	
衣料品販売店			学生用品が主流で、一般客の来店が見込めない状況は、今後も変わらないと思う。	
家電販売店			所得は多少上がっているが、物価上昇分の方がまだまだ大きく、僅かな余裕分は貯蓄に回している人が、従業員含め多いように感じるため、変わらないと判断する。	
自動車販売店			先行きの不透明感は拭えないものの、3か月程度では大きく変わらないと判断する。	
レストラン			10月から最低賃金上がる。人件費上昇分を単価に上乘せするかどうか、難しい問題である。単価を上げると客足に影響が出るかもしれないが、現時点では変わらないと判断する。	
イタリア食堂			ここ何年も変わらないのだから、3か月先も変わらないと思う。	
都市型ホテル			米の価格高騰は継続し、原価率の高い状況は今後も変わらないと思う。	
旅行代理店			団体旅行や海外旅行の件数は低調だが、顧客単価が上がっているため、総合的には変わらないと判断する。	
タクシー運転手			新規の客が少ないものの、売上げとしては大きく変わらないと思う。	
観光型ホテル			例年の12月の売上げからみて、変わらないと判断する。	
タクシー事業者	乗客の業種は様々である。ある業種では利用を控えている様子なのに対し、別の業種では利用客が増加している。客層が変わっただけで、タクシーを必要としている客が一定数いるのは事実であるため、プラスマイナスを考えると変わらないと判断する。			

変 わ ら な い	家計	理・美容店	少しずつ物価高に慣れてきているように感じるため、変わらないと判断する。周囲では、値上げは仕方がないという諦めにも似た声を聞くようになった。
		商店街代表者	物価高やエネルギー価格の高騰などが根本的に改善されれば景況も変わると思うが、現時点では変わらないと予想する。
		クリーニング店	気候が涼しくなり”お出かけモード”になると、よそ行きの衣類を着る機会が増えてくる。衣類の利用頻度が増えると来客数も安定すると思う。かといって良くなるという見込みはないため、変わらないと判断する。
	企業	農業関係者	高温障害が発生しており、生産量が減少しているため、変わらないと判断する。
		製造業（光学ガラス加工）	同業他社や取引先との話の中で、未だに景気が上向くような話は聞こえてこない。
		製造業（電気機械器具）	政府の物価高対策も未だ着手されていない状況であり、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	中・長期の予測は難しいが、現在の状況が継続すると思われる。
		製造業（印刷・同関連業）	3か月先は年末なので、全体的に忙しくなる。ただ、現時点の動きから推測すると、例年並の忙しさにはならないと見込まれる。今後、また材料の値上げの話も出ており、利益としては変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	取引先の生産計画が不安定で、毎月のように見直しを行っている様子であるため、変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	先の見通しが立っていないため、変わらないと判断する。
製造業（化学工業）		年末に向けてやや受注が軟化する見通しであるが、これは例年の傾向であり、景気自体に大きな変化の兆候は見られていない。絶好調だった生成AI関連で一部受注減速との見方もあるが、これは好調を見越しての在庫の積み過ぎによる可能性が高く、需要自体に大きな変化なく、減少があったとしても一時的なものと考えられる。	
建設業	特に変化を感じない。		
金融業	人材不足等の事象は3か月程度では変化しないように思われる。		
雇用	学校就業関係者	就職状況は、概ね変動なく安定して推移する見込みである。	
	求人開拓員	毎月3回実施している就職活動支援セミナーの参加希望予約が多く、満席状態が続いている。求職者、特に高齢者の労働市場が厳しくなっている状況は、今後も変わらないと思う。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	和食レストラン	最低賃金上がることで、利益が残らない中小企業が増えると思込まれるため、やや悪くなっていると判断する。
		ゴルフ場	例年であれば、客数が伸びるシーズンだが、予約数は体感で前年より減少しているため、やや悪くなっていると判断する。
		設計事務所	当分この静かな状況が続くと思われるので、やや悪くなっていると判断する。
		設計事務所	アメリカ関税の影響が出始めるのではないかと懸念している。
企業	製造業（食料品）	最低賃金が約7%上がるようだが、扶養範囲内労働者の働ける時間が減り、人員を増員しなくてはならなくなる。また、賃金上がるということは、更に物価が上がることに繋がる。賃金アップ、物価もアップの繰り返しになり、今後景気はやや悪くなっていくと思う。	
	サービス業（コンサルタント業）	トランプ関税の影響で、輸出関係の製造業は先が見えない環境にあるため、やや悪くなっていると判断する。自動車関連部品製造会社では、関税の影響でメーカーからの発注が不確定になっており、製品の製造計画が立てられない状態にある。現在は縮小生産を行わざるを得ない状況で、今後も厳しい環境にある。	
雇用	求人広告	10月の県内の最低賃金UPの話を受けて「厳しい」という声も多く、採用等も控える企業が多いため、やや悪くなっていると判断する。また、以前よりも「求人広告を出し続ける」企業が減ったように感じる。	

やや悪	雇用	人材派遣業	最低賃金の引き上げにより、採用控えの動きがありそうなので、やや悪くなっていると判断する。直接雇用のパート・アルバイトを最低賃金に合わせている小規模の企業や店舗では、人員削減の検討をしているところもある。
悪	家計	製茶販売	客数の減少は今後も続くと予想されるので、悪くなっていると判断する。
		レジャー施設	最低賃金を上げるのは理解できるが、その先の方策がない。上げるだけ上げて、あとは企業に丸投げでは、企業、特に中小企業は対応できないと思う。よって、今後は更に悪くなっていると判断する。

### Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

#### (1) 県北地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	買上げ単価が下がっている。
	スーパー	スーパーマーケット各社では、来店客数が徐々に減少している。
	コンビニエンスストア	主食が、米から麺類へと移行している。
	コンビニエンスストア	経営者にとって、最低賃金が毎年上がるのは、かなりの負担である。
	小売業（弁当・惣菜店）	天候の問題で、農産品の出来が悪いという報道が気にかかる。また、最低賃金の上昇があまりにも急激で、事業所側の対応が追い付けるかも問題だと思う。当店では7月に賃金アップと価格改定を行ったところだが、10月から適用される最低賃金は予想を超える上昇幅だった。物価高も依然として続いており、当店でも価格反映に苦慮しているところである。しかしながら、多くの消費者から理解ある声が寄せられ、客数が変わらないのは救いでもある。
	小売業（酒類）	地域活性化のためには、住民と行政の話し合いが必要である。
	小売業（水産物）	観光客数が多少回復しているように感じる。その動きを活性化させ、地域を盛り上げたい、という若者の声を聞くことがあり、頼もしく思う。
	小売業（時計）	最近の傾向として、時計をネットで購入する方が増えている。よって、店頭向けには、地元の高齢者を対象とした商品に絞って仕入れをしている。
	レストラン	県の最低賃金の上昇率が凄すぎる。年間の人件費がとてつもなく上昇する。政府は将来時給1,500円を掲げているが、地方の中小事業者にとっては、かなり厳しい。扶養枠も早く変更してくれないと、短時間パートの労働時間を削らないといけないため、人員不足に陥る。人を集めるのもなかなか難しい状況であるし、中小企業としては景気が良い・悪いの前に、存続していけるかどうかの不安しかない。
	スナック	スーパーやホームセンターの安売りには人が群がっている。
	日本料理店	今年の米が予想より良い出来でひとまず安心した。ただ、原材料費の高騰に伴い、同業者でも値上げの動きが多い。また、人手不足が続いていて、外国人の応募や売り込みが増えてきている。
	レジャー施設	団体客の減少が顕著になっており、見込んでいたより固定収入が減少している。修学旅行や企業研修も、極力近場へとニーズが変化している。研修などは実地よりオンラインが主になり、企業負担が少ない方向へシフトしている。当社でも、以前は実施していなかった学校研修の職場体験を受け入れるなど、新たな収入源の確保対策を模索している。
	ゴルフ場	食料品を含む物品の値段が上がっている。何よりコメの値段が高すぎる。
	ゴルフ場	新米の季節になったが、仕入業者から今年も米の値段が上がると申出があった。今年も、米の価格は安定しないと思う。
	ゴルフ場	周囲に景気動向の話を知ると、建設業界を含め全般的に、横ばいという答えが多い。活気のある企業の話も聞くが、企業努力によるものなのか、カラクリはわからない。先日、職業安定所が主催の新卒採用説明会に参加した。そこで聞いた就職希望者の希望内容に非常に驚き、現実とのギャップを強く感じた。企業として、そのギャップを埋めることができるのか、痛切に考えさせられる機会だった。物価高騰が続いているが、学生時代、国産煙草が100円台だった頃、輸入タバコは高価でとても買えなかった。今では、ほぼ変わらない価格表示に驚きを感じている。
ゴルフ場	某大手飲食チェーンが地元の米農家と直接取引にて、どの銘柄米でも、最も高い銘柄米と同じ金額で、米をいくらでも買取るといった話が出回っている。それが現実になれば、米農家には農協等に卸すよりも割が良いと思われるので、農協に卸すコメは減少し、今後益々一般消費者の買える米の価格高騰が進んでしまうのではないかと。米に限らず、様々な物で同様の傾向が起きており、物価高騰傾向は今後も続きそうである。	

家計	写真店	近隣の人気商店が、店主高齢のため閉店した。とても活気のある商店で、売上げも好調なのではないかと思っていたのだが、寄る年波には勝てなかったということなのだろうか。経済的に困窮していなくても、仕事を続けられなくなる状況があるということを目の当たりにし、事業を続けていくことの困難さをひしひしと感じている。
企業	林業関係者	農家は新米の季節を迎え活気が出ているが、林業もこれからが本格的な最盛期となるので、精力的な活動を続け、景気上昇の一助となるよう努めたい。
	製造業（食料品）	先日、稲刈りが終わった。茨城県は水不足の影響をあまり受けなかったので、例年通りの収量が確保でき一安心である。コメの価格が上昇しているので、周りの農家も嬉しそうだ。
	製造業（化学工業）	最近、安い中国製品を見かけなくなった。今後、本格的な物価高との戦いになるのではないかな。
	製造業（金属製品）	地元の大手メーカーが、グループ会社を売却するという報道が出て、様々な憶測を呼んでいる。このようなことから先行きの不安が増すことは、企業の投資行動にも大きな悪影響を及ぼすと思う。正確な情報発信を期待したい。
	製造業（電気機械器具）	未受注品が多いので、今後多くの注文を受注できるよう、営業活動を行っている。
	製造業（電気機械器具）	建設工事の価格が高騰し、納期が長期化している。職人の確保が難しいことが要因の一つのようである。来社している職人の年齢も60歳以上がほとんどであり、外国人がメンバーに入っていることもある。
	製造業（精密機械器具）	先日買物に行った際、セールにも関わらず買物袋を下げている人が少なかったのが印象的だった。タイムセール自体も減ったように思う。セールの規模も縮小されているようで、値上げが連続した結果、セール価格にもできない状況に見える。
	非製造業（その他）	最低賃金は上げられるが、物価高が続いており、可処分所得は変わらない。

## (2) 県央地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	一時期の値上げラッシュは落ち着いたように思えるが、毎月のように値上げの発表があり、物価高を感じる。
	商店街代表者	従業員の高齢化、退職者の増加により、人手不足から事業を継続できない店が目立ってきている。
	小売業	物価高騰により中間所得層の購買意欲が鈍化している。セール等でも衝動買いが少ない。
	スーパー	茨城地方最低賃金審議会の答申に、中小企業は困惑している。
	コンビニエンスストア	茨城空港について、8月7日（木）より国際線の①曜日・時間帯の就航制限、②出発便と到着便の間隔制限（1時間以上）、③到着後の滞在時間制限（1時間以内）が撤廃された。夜間駐機の制限だけが残っているものの、10月5日（日）～25日（土）までは、茨城-清州の韓国路線が週3便（火、木、土）⇒週4便（日、火、木、土）に増便される。これが地域経済に良い影響をもたらしてくれることを期待する。
	農産物直売所	特に週末は、道の駅と客の取り合いになっている。
	日本料理店	買控えにより出歩く人が少ない。
	都市型ホテル	色々な品目の値上げが相次ぎ、個人消費自体が下がってる感がある。客との会話でも、買控えで調整しているという方が多いし、自分でもそうしている。
	観光型ホテル	物価が上がっていると実感している。
	バス運転手	新米が出始まる時期だが、価格の高止まりは続きそうである。流通量が増えてくれば、価格は安定してくるはずではなかったのか。
	タクシー運転手	7～8月の異常気象（猛暑）により、余程のことがない限り、高齢者は出歩かなくなった。
	道の駅	観光地やイベント会場には外国人が多い。店としても、インバウンドに力を入れていくべきなのか、迷うところである。
	スーパー銭湯	温浴業界では全国的に、施設が老朽化しても建築費が高騰しているため建替や改装を断念し廃業するケースが目立つ。一方で、異業種から参入するケースが増えている。
	ゴルフ場	米の値段が高騰しており、新米を購入できない家庭が多いと感じる。
	写真店	とにかく物価が高くなっている。
企業	農業関係者	どこに出かけても、混んでいる印象がある。
	製造業(食料品)	原材料や仕入商品等の価格改定が目立つ。
	製造業(窯業・土石製品)	とにかく金を使わないようにしている感じがする。
	製造業(一般機械器具)	ニュースで景気回復と報じられていても、仕事の現場ではコスト競争の厳しさを感じる。それでも新しいビジネスを探したり改善でチャンスを伺いたい。
	製造業(輸送用機械器具)	物価高が止まらない。米の価格についても、備蓄米の影響で一時的に下がったように見えるだけで、近所の米価格は高騰したままである。9月にも食料品などの値上げが続いており、景気が良くなっている感じは全くしない。
	製造業(精密機械器具)	自動車関連は厳しそうである。
	建設業	株価が実態より上がっていると思う。

企業	建設業	茨城空港の拡大に向けて動きが活発になっている。将来的に、増便や施設拡大が実現すれば、利用者が増加し、地元の景気向上・雇用増進が図れるのではないかと期待している。
	運輸業（道路貨物運送業）	とにかくドライバーを募集しても集まらないとの声を聞く。50代や60代のドライバーが頑張ってくれているので何とか凌いでいるが、将来的にドライバーの担い手や技術の継承に不安を感じている。
	金融業	中心市街地を中心に、商業施設併設マンションの建設が加速している。また、市内各地で、戸建用分譲地の開発も積極的に行われている。
	不動産業	今後、不動産分譲事業は、採算の合わない地域がほとんどとなり、県内ではつくばエクスプレス沿線のみとなるかもしれない。
	情報通信業（情報サービス業）	人件費や経費の上昇に見合った収益確保が難しく、目標利益に追いつかない。
雇用	求人広告	エンゲル係数が上がっている気がする。
	公共職業安定所	求職者については、物価高騰の影響で、特に高年齢者の増加傾向が続いている。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	コメント
家計	コンビニエンスストア	最低賃金の上昇を企業がカバーするには限度があり、既に苦しい状況である。法人税減税などにより、働く場所・環境を守る事の方が、早期に着手すべき政策ではないか。このままでは、企業が人を雇えず廃業し、労働者は働く環境がなくなり、金が回らなくなり、景気は一層悪くなると思う。
	衣料品販売店	今年の夏は酷暑で災害級の暑さが続いている。単純に物価高の理由だけでなく、外出が減ることから洋服や身の回り品の購入が少ないように思う。
	家電販売店	当店の客層は高齢者が多い。食料品の価格が上がって、生活が大変そうである。
	農産物直売所	随分前からだが、スーパーの半額総菜を目当てで来店する人が非常に増えたように思う。当店でも、半額コーナーにばかり以前よりも客が集まるようになった。
	小売業（食品）	業種によって違いはあるが、物価高が影響している。
	洋食食堂	先日、市街地を散歩したが、商店は元より生活者の数が減少していると感じた。
	割烹料理店	暑すぎてエアコンを使用する時間が増えた。その分電気代が嵩むので大変である。
	観光型ホテル	県央地区で数十年空き地だった場所に、分譲地や賃貸住宅が急激に増えている気がする。住宅に限らず、必要なものを、必要な人が、必要な状況・場所で、正しく購入・利用ができるようになれば、景気も良くなるのではないかと思う。
	運転代行	物価高騰が続いている。この状態はいつまで続くのだろうか、この先どうなるのか不安である。早く景気が良くなってほしい。
	旅行代理店	物価上昇や人口減少により地域経済が停滞する中、製鉄所の高炉閉鎖が、景気悪化に拍車をかけている。
	タクシー運転手	日本全体のことを考えて対策を実施していかないと、景気はいつまでたっても良くなれないと思う。
	ゴルフ場	日常生活において、色々な物が値上がりしている。給与のベースアップはあるが、値上げの速度に追い付いていないと感じる。
	レジャー施設	国の物価高対策には捗々しい進展がなく、個人負担が増え家計が逼迫している。国や県には、物価高対策を慎重かつ迅速に進めてほしい。
企業	農業関係者	最近、米の値段が騒がれているが、産地直売所の価格帯は昨年度と比較して高いものの、スーパー等よりは安いと消費者には評判が良い。米については、生産コスト等も考えれば、以前のような安い価格帯には戻らないと思われる。
	製造業（その他）	米以外の農産物も、以前より価格が上がっていると感じる。
	製造業（一般機械器具）	特に景気が良いと感じるようなこと（引合い増加など）がない。
	建設業	備蓄米の流通が始まったが、我が家は備蓄米が手に入らず、カリフォルニア米を食している。アメリカの米は、安全面が些か気になるものの、味はなかなかである。新米価格は、昨年比べて1,000円程高い状態である。卵も、かつて物価の優等生だったはずが、餌や気候など複合的な影響で倍以上に高騰している。これも大いに景気に直結していると思う。
	建設業	工事が大型化している。要因は、資材と人件費の高騰によるもので、数年前に計画した物件だと金額が合わない。
運輸業（道路貨物運送業）	物価高に配慮して、取引先等の企業では給与が増加したという話を聞いた。	

企業	金融業	今年3月末、地元製鉄所の高炉が休止した。その影響が、コンビナート所在市町村だけでなく、隣接市町村においても出始めている。港湾施設では、鉄鋼石を積んだ船の入港数が減ってきている。また、コンビナートの定期修理が、猛暑の影響を受け期間が延長されたところもあり、一部年間の通常工事が遅延している。
	保険業	新車、中古車の市場は高騰し続けているが、高くても購入する顧客が増えている。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	コメント
家計	スーパー	当店はディスカウントストアであり、商品価格は通常よりも低く設定しているが、万引きや八つ当たりのような接客クレームなどが増えているように感じる。
	小売業	テナント各店においては、接客や販売職の人材確保が引き続き困難な状況にある。近隣の千葉県や埼玉県と比較して、最低賃金の地域格差が顕在化しており、採用競争において不利な状況が続いている。
	小売業（生花店）	県内事業所が県南地域へ新営業所を建設する際、看板に「〇〇本社」という地名表記を掲げるケースが以前より増えたように思う。県南地域の都市（学園都市やつくばエクスプレス沿線）のブランドが、以前より重宝されるようになったのは好ましいことだ。
	衣料品販売店	最近、リカバリーウェアの売上げが伸びている。同じ服を買うにせよ、付加価値のある商品を求める客が増えている。
	小売業（米穀）	中国製の電気自動車に乗っている人が増えたように感じる。国産車の価格と比べての選択だと思う。
	洋食レストラン	飲食店だけでなく、サービス業の店が増えているように思う。当店の周りでも4か所くらい新しい店が出来ている。しかし、家賃の関係で移転も多いようだ。
	日本料理店	以前、静岡県でハマチが大量に水揚げされた時に値段が下がるのかと思ったが変わらなかった。今年もサンマが大量に獲れたがそれ程安くなっていない。米に関しても同様で、農協の買入れ価格が35,000円というのは異常である。飲食店では20,000～25,000円が限度で、それ以上になると厳しい。米を投機の対象にできないような対策が必要だと思う。
	都市型ホテル	茨城県の最低賃金が1,074円に上昇予定ということで、これが景気回復のきっかけになれば良いと思う。当社では、一般職・管理職の賃金はあまり変わらないので、依然として厳しい家計状況が続くようである。
	都市型ホテル	県南地域の客室単価は低迷したままである。客単価が上がるよう、県南地域でもイベント（特にスポーツ）の開催を検討してほしい。
	都市型ホテル	エアコンの不調や修理、交換で予想外の出費が多かった。猛暑が長期化したため、例年に比べ光熱費が高額になった。また、夕飯をコンビニ弁当で済ませる客が増加している。
	タクシー会社	タクシー業界は、沢山ある配車アプリのうち、どれを何台くらい導入するかで、各社が差別化を図っている。そもそも、県内では都内のような”流し”と言われるタクシーは認可を受けていないのだが、アプリを利用することで何でもあり状態になっている事に疑問を感じる。かつてのような、本社中心の地域密着度や駅待機などは置き去りになりそうである。
	テーマパーク職員	他のテーマパークも含め集客状況を見ていると、リーズナブルな短いプランや特定のアクティビティのみのプランを選択する客が増えているように思う。要因としては、第1に、暑すぎて全コースプランをやりきるのが困難と判断する方が多くなっているため。第2に、長引く物価上昇により、遊びに使う余裕資金が少なくなっているため、と考えられる。
	理・美容店	飲食店を筆頭に、個人商店の廃業が目につく。
	設計事務所	住宅ローンの審査基準は前年度の年収なので、物価が値上がりしている時には借入がより難しくなる。建築資材である生コンクリートの価格が、2年前と比べ倍近くに高騰している（1リユベ当たり1万円だったものが、現在約2万円）。また、職人の高齢化により、職人が不足している。このような状況から物件価格は上昇傾向にあるが、弊社では住宅価格を下げようと努力している。2LDK797万円（泣くなシリーズ）を販売計画中である。

企業	農業関係者	茨城県の最低賃金の引上げが10月以降実施されるものの、米を始めとする食料品や生活物資等の価格高騰は続いており、水稻農家以外の一般消費者の購入意欲向上に繋がるとは考えにくい。
	製造業（飲料）	近所で、ノーブランドグッズを販売する店舗が11月にオープンすることになった。つくばエクスプレスが開業20周年を迎えるなど、県南地域では賑やかなニュースが多い。市の人口も増えているので、今後人の動きが活発になりそうだ。
	製造業（印刷・同関連業）	今年の夏はあまりにも暑く、外を歩く人がめっきり減っているように感じる。小売やサービス業の方からは商売に影響が出ているという話を聞いた。
	製造業（窯業・土石製品）	ガソリンや食材の価格が高止まりしている気がする。
	製造業（非鉄金属）	物価高が続く一方で、最低賃金は異常に引上げられている。トランプ関税の影響は大きく、国内製造業者の負担は免れない。年内には、日銀も政策金利を上げると思われ、銀行金利も上昇する。様々な角度からコストは上昇しているものの、元受け先にコスト上昇による単価引上げを認めてもらうのは困難である。中長期的に見ると、中小企業が衰退し、景気が後退することは必然と考える。
	建設業	材料費や人件費等、物価の高騰を感じている。
	金融業	預金金利の上昇から、金利に対する意識が高くなってきており、問合せが増えてきている。
	不動産業	銀行の不動産業者向け融資が伸び悩んでいる。
雇用	求人広告	飲食店の客足が落ち込んでいる気がする。
	求人開拓員	週末の買物客が減少しているように見える。大型ショッピングセンターの駐車場が空いている。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	日々節約して、使いたいことに使っている印象がある。節約した資金で、家を買った知り合いが数人いる。
	商店街代表者	最近入院したことを契機として、テレビを見る時間が多くなったのだが、行列のできる店、格安な店、高級な店など、食べ物に関する番組の多いことに驚いた。生活が苦しいと言いながら、日本はまだ裕福なのかなと思う。
	衣料品販売店	学生用品でも、お下がりや譲り受けなどで、出費を抑える客が増えている。
	自動車販売店	農業に関連する方は、酷暑の影響を大きく受けているようだ。
	小売業（酒類）	日経平均株価が史上最高値を更新したといっても、全く実感がない。また、米の価格で騒ぎ過ぎではないか。農家だって経費が値上りしているのだから仕方のないことだと思う。
	製茶販売	年齢を問わず、髪の毛を伸びた状態で放置している人が目に付く。以前より身なりに構う財力がなくなったのだと思う。クリーニング店でも客が減っている。スーパーも食材の数が少ないように感じる。何処も困っているのだろう。
	日本料理店	余分な買物をせず、外食を控えているように見える。県西地域で活気のある場所がない。
	イタリア食堂	最近周りでは、テレビ取材を受けた反響で売上げを伸ばしている店が多い。マスコミやSNSが取り上げるのは、何かしら特徴のある店が多いが、大切なのは、皆に親しまれ、愛される店づくりだと思う。そのような店として、当店もいつか取り上げてもらえれば本望である。
	旅行代理店	ホテルはインバウンド需要があり、収益は高水準のようだが、従業員不足は深刻なようだ。貸し切りバス会社も乗務員不足で大変苦労している。
	タクシー事業者	物価高騰のため、無駄なものに金を使いたくないという人や、どこを削るかと考えている人が多い感じがする。
	道の駅	物価の上昇傾向は変わらない。相変わらず、いろいろなものが値上がりしており、不平不満の声が聞こえてくる。
	レジャー施設	物価上昇が止まらず、新米も高値になると予想される。最低賃金は上がったが、年取の壁が変わらないので、労働者の勤務日数が減るだけである。企業への補助などはないので、経営状況は徐々に悪くなっていくと思う。
	商店街代表者	市内にスーパーマーケットを核としたショッピングセンターが開業する見通しである。予定地の造成等が開始され、今後、市内の消費動向にも変化が出てくるのではないと思われる。このショッピングセンターには地元企業も出店することができるらしいので、地元企業の飛躍も期待される。
	クリーニング店	材料費や燃料の高騰、最低賃金の上昇など、中小企業にとっては厳しい状況が続く。
設計事務所	暑さへの特別な対応が必要になっているのではないかと。	
企業	製造業（窯業・土石製品）	電力、燃料の値上がりに伴い、自社製品を値上げしてもらうことが、事業継続には不可欠である。このことが、業界の共通認識になってきている。
	製造業（印刷・同関連業）	色々な物が値上がりしていることに加え、暑さもあり、人の動きがない。どこも景気が悪く、特に住宅関係が良くないようだ。
	製造業（金属製品）	この夏の暑さの影響で、やる気を失くしている感がある。
	金融業	企業の倒産が増加しているように思われる。
	不動産業	駅近辺の不動産価格が上昇している。

雇用	人材派遣業	いくつかの大型テナント倉庫で、借り手が見つからず空フロアになっているところが散見される。また、地元の自動車メーカーも、生産が伸びておらず、関連企業での新規採用はあまり見かけない。停滞とまではいかないが、現状維持といった感じである。
----	-------	---